

K&Oエナジーグループ株式会社

2023年12月期決算説明会

2024年2月19日開催



証券コード 1663

目次

1. サマリー・・・ 3
2. 連結決算概要・・・ 5
3. 業績予想等・・・19
4. 【参考】グループの概要・・・39

1. サマリー
2. 連結決算概要
3. 業績予想等
4. 【参考】グループの概要

◆決算概要: 売上高は減少したものの各利益が増加 ◆2024年業績予想: 売上高及び各利益が当期に比べ減少 ◆1株当たり配当金: 増配予定

(百万円)	2022年実績	2023年実績	増減率
2023年 決算概要			
売上高	106,200	96,298	△9.3%
営業利益	7,304	9,668	+32.4%
経常利益	7,931	10,408	+31.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	4,766	6,464	+35.6%

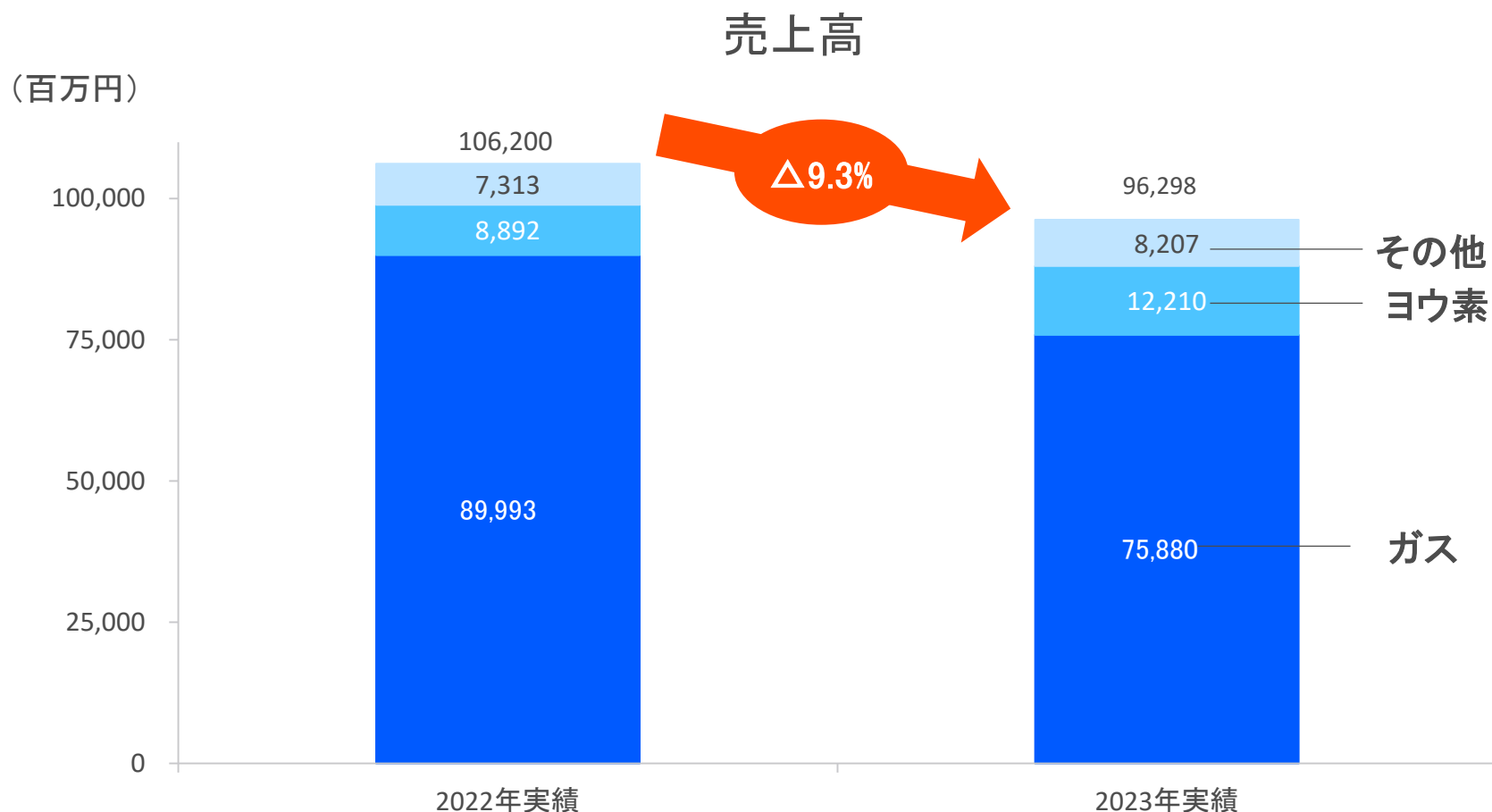
(百万円)	2023年実績	2024年予想	増減率
2024年 業績予想			
売上高	96,298	92,200	△4.3%
営業利益	9,668	6,800	△29.7%
経常利益	10,408	7,500	△27.9%
親会社株主に帰属する当期純利益	6,464	4,600	△28.8%

1株当たり 配当金	2023年実績・予定: 中間17円/株+期末 21円 /株=計38円 2024年予定: 中間 20円 /株+期末 20円 /株=計40円(2023年実績・予定と比べ 2円増配)
--------------	--

1. サマリー
2. 連結決算概要
3. 業績予想等
4. 【参考】グループの概要

2023年度決算 【売上高】

売上高は、主に販売量の減少によってガス事業の売上高が減少したことなどにより、2022年実績と比べ9.3%減少の96,298百万円となった

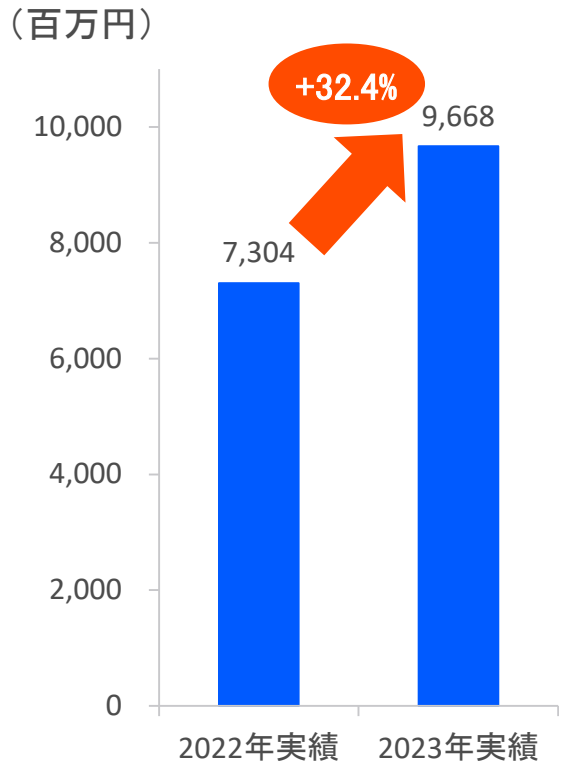


2023年度決算

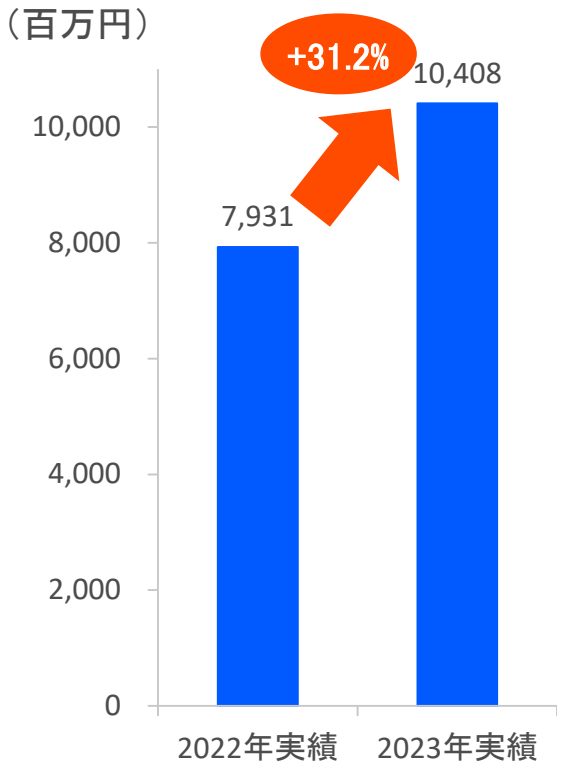
【営業利益・経常利益・当期純利益】

ヨウ素販売価格が上昇したことなどにより、営業利益は32.4%増加の9,668百万円、経常利益は31.2%増加の10,408百万円、当期純利益は35.6%増加の6,464百万円となった

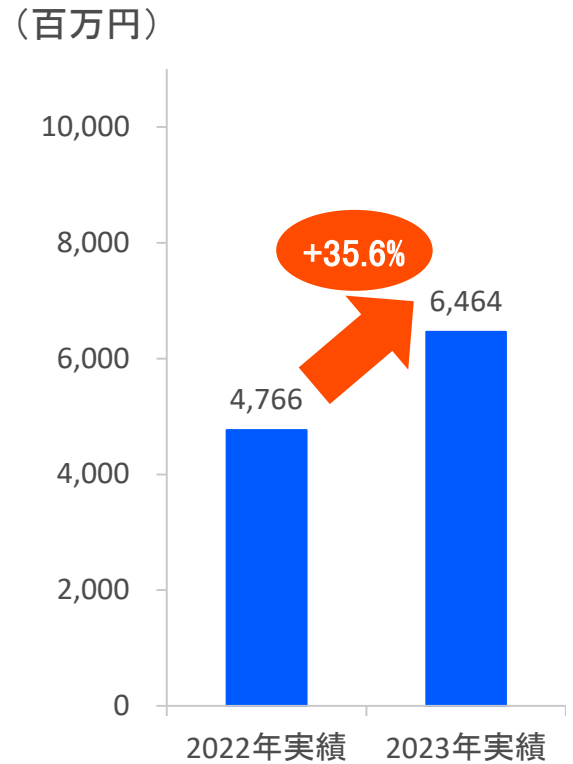
営業利益



経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益

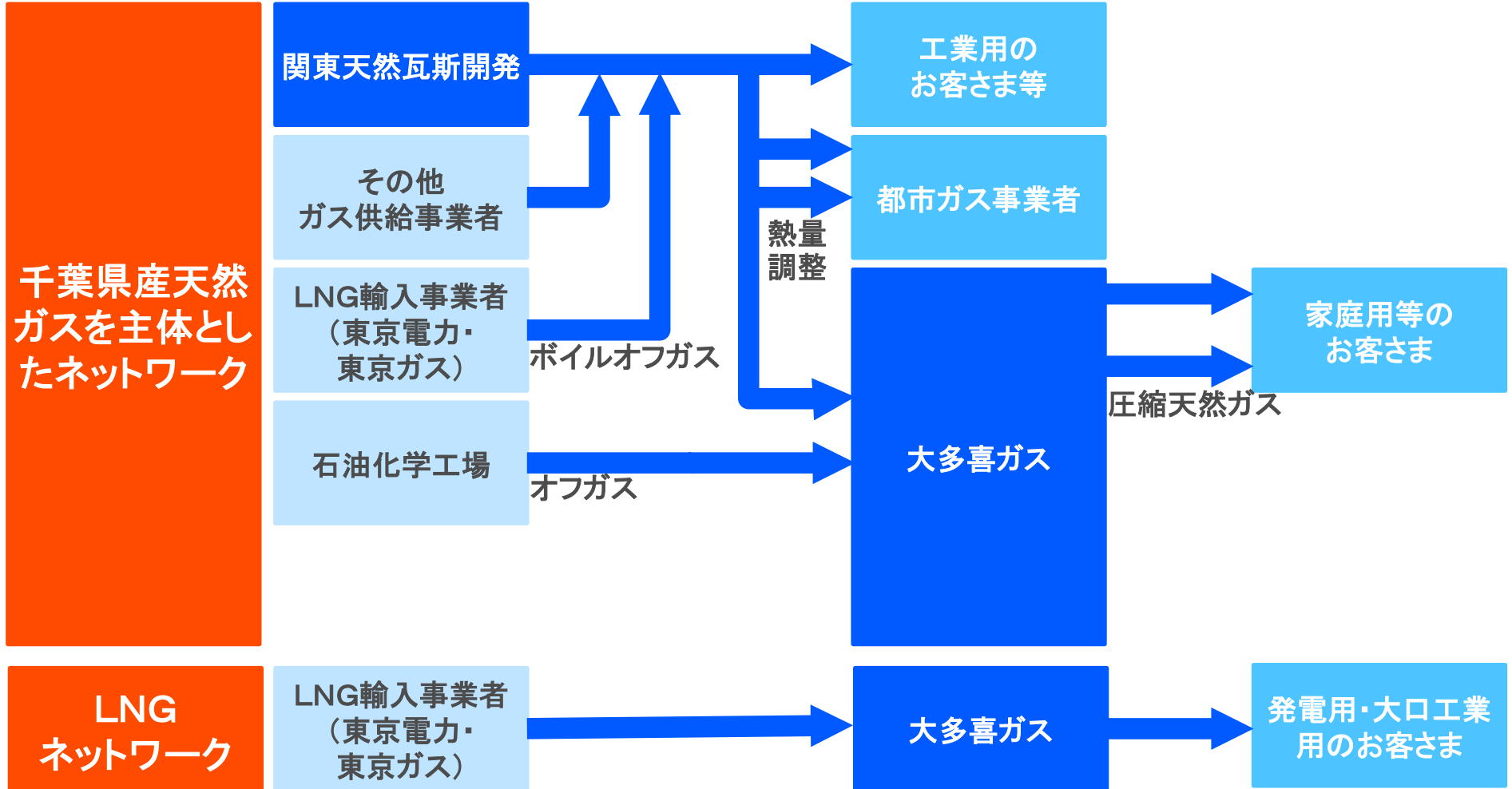


決算概要 2023年度決算 【営業利益・経常利益・当期純利益】

注: 本スライド以降、一部箇所にて「親会社株主に帰属する当期純利益」を便宜上「当期純利益」と記載している

【参考】グループガス事業ネットワークについて(イメージ図)

当社グループは主に「千葉県産天然ガスを主体としたネットワーク」と「LNGネットワーク」を活用してガスを供給している



決算概要
 【参考】グループガス事業ネットワークについて
 (イメージ図)

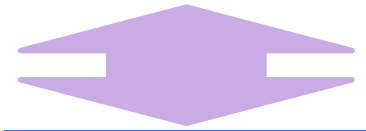
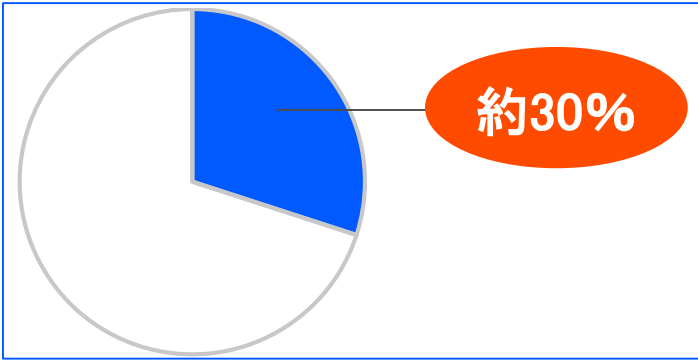
注1: 上記のほか、大多喜ガスが、外部よりLPガスを仕入れ、一般家庭向けを中心に販売している
 注2: 【ボイルオフガス】…LNG(液化天然ガス)の一部がタンク内で自然に気化したガス
 注3: 【オフガス】…石油化学工場で化学製品を製造する際に発生するガス

【参考】グループガス事業ネットワークについて(特徴)

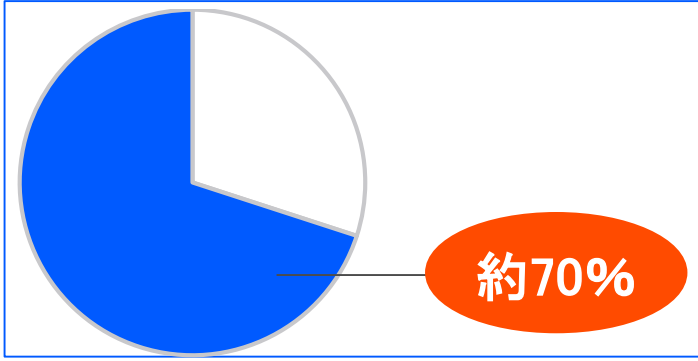
「千葉県産天然ガスを主体としたネットワーク」と「LNGネットワーク」の特徴は以下のとおり

販売量に占める割合

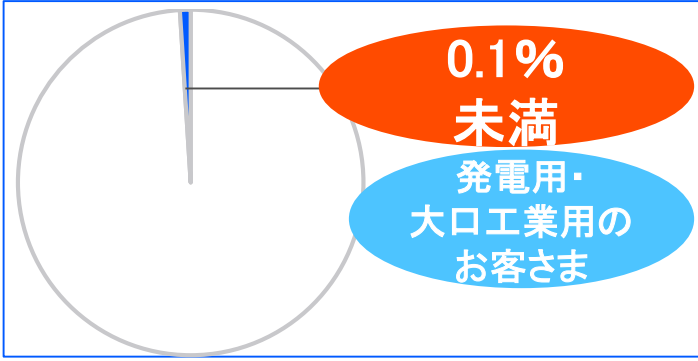
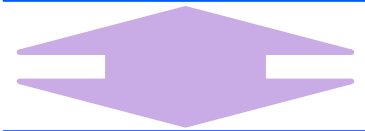
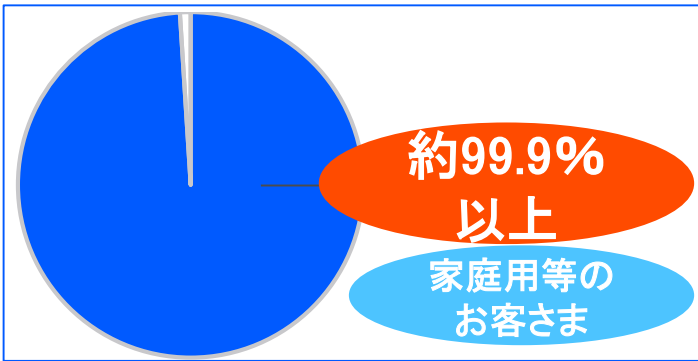
千葉県産天然ガスを主体としたネットワーク



LNGネットワーク

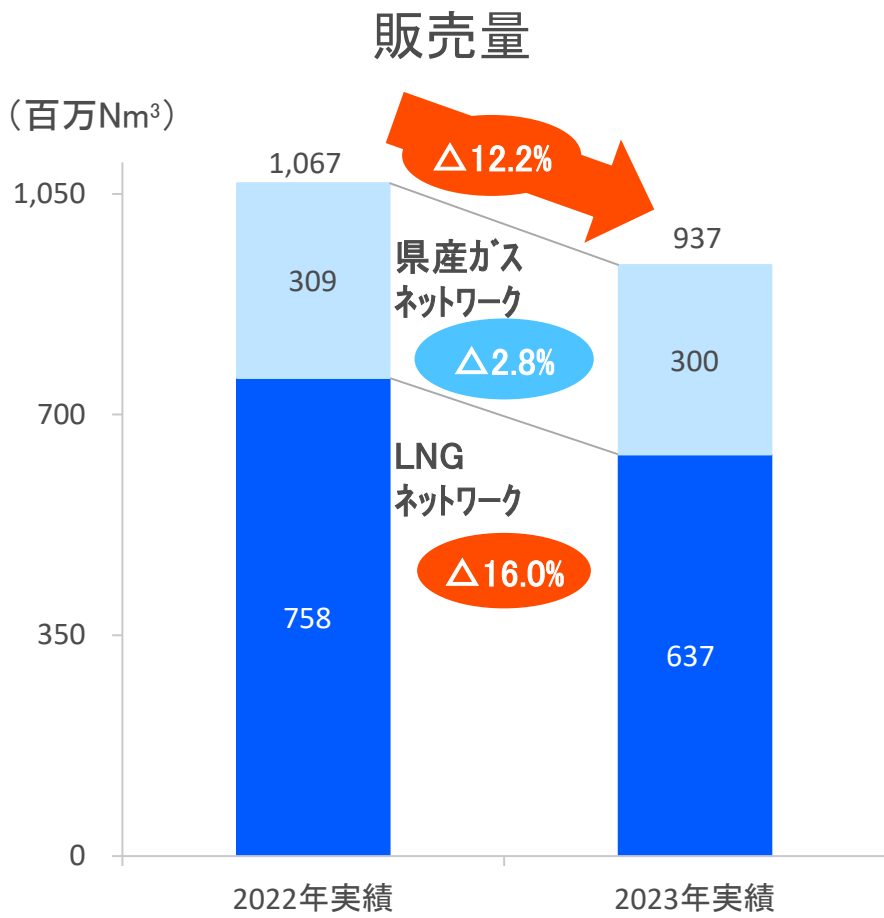


お客さま件数に占める割合



決算概要
【参考】グループガス事業ネットワークについて(特徴)

2023年度決算 【ガス事業：販売量】



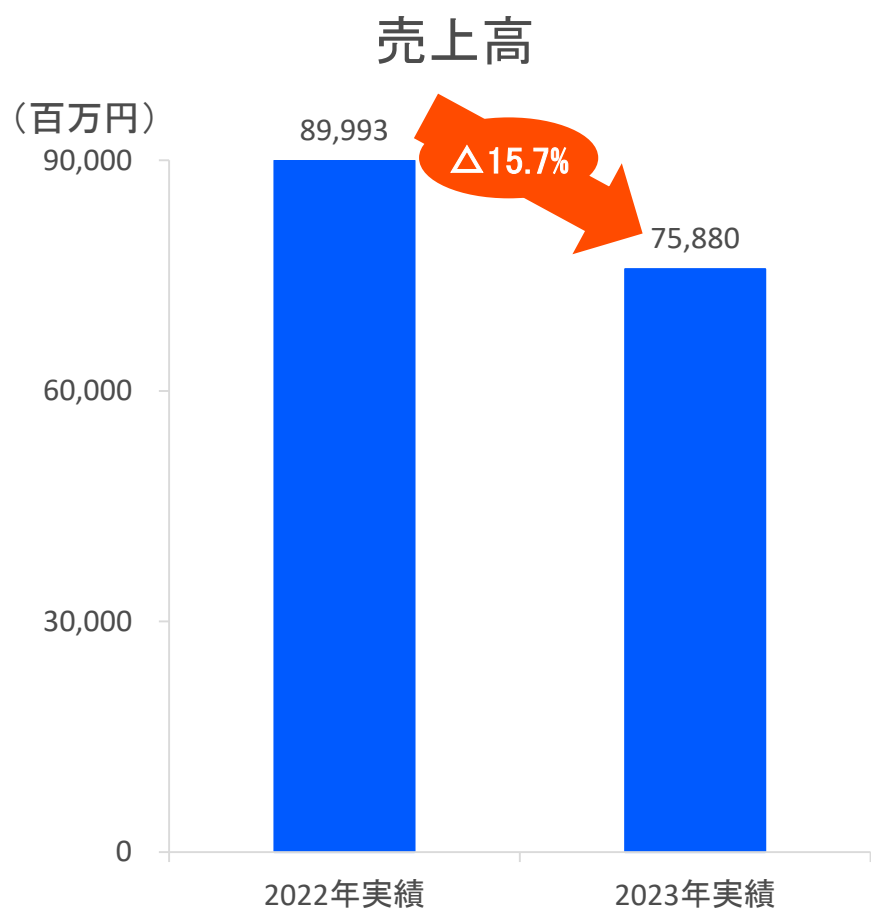
販売量の主な減少要因

△ 発電用途での需要減少などによるLNGネットワークの販売量減少

決算概要
2023年度決算
【ガス事業：販売量】

2023年度決算 【ガス事業：売上高】

発電用途のガス販売量が減少したことなどにより、売上高については15.7%減少の75,880百万円となった



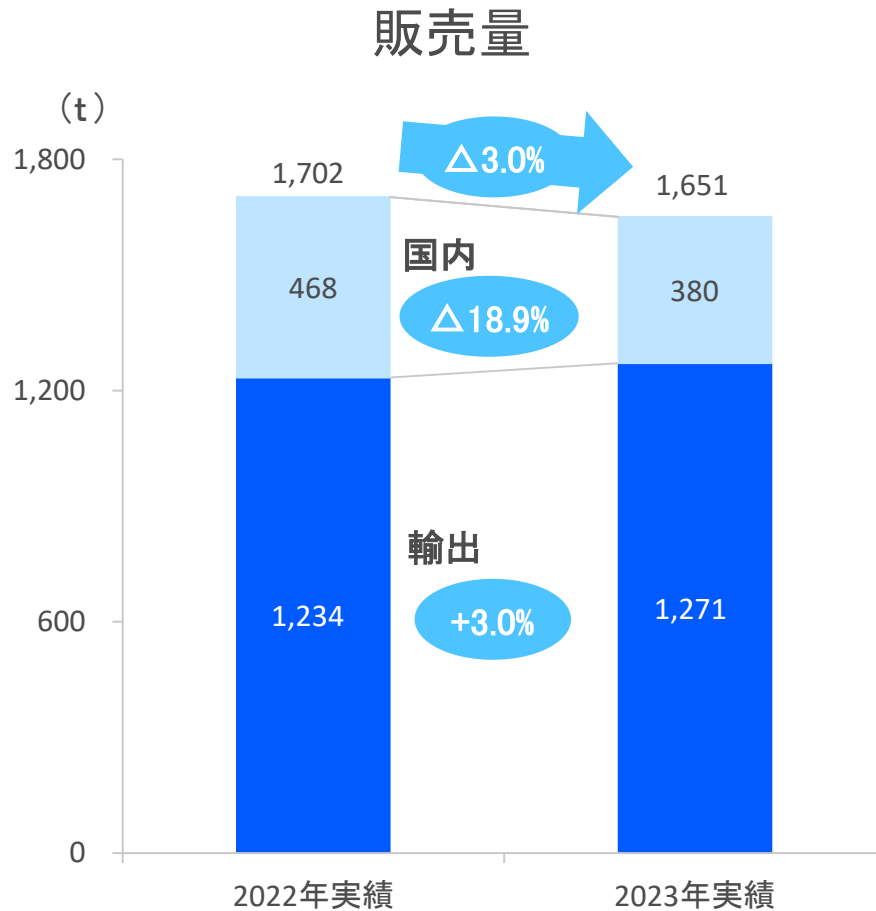
売上高の主な減少要因

△ 発電用途での需要減少等によるLNGネットワークの販売量減少

※ LNG-CIF適用価格：
2022年 110千円/t
→2023年 103千円/t

概要 決算
2023年度決算
【ガス事業：売上高】

2023年度決算 【ヨウ素事業：販売量】



販売量の主な減少要因

△ 出荷時期のズレ等による販売量減少

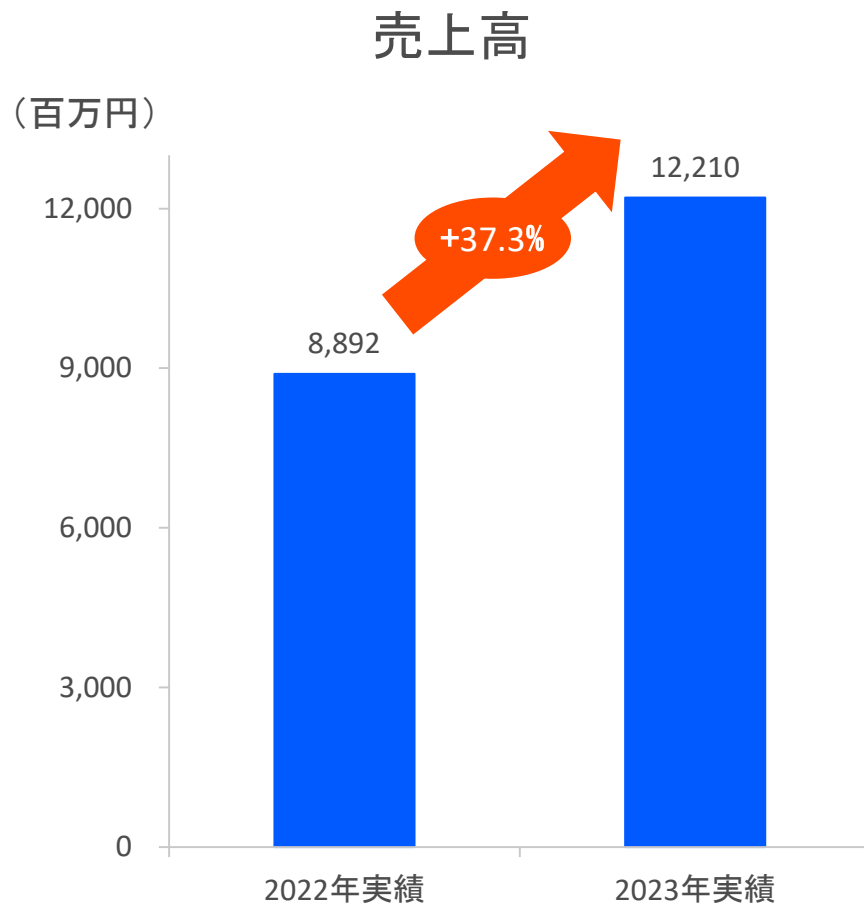
決算概要
2023年度決算
【ヨウ素事業：販売量】

注：販売量には、ヨウ素のほか、ヨウ化カリウムも含まれている

2023年度決算

【ヨウ素事業：売上高】

好調な市況を背景に、ヨウ素販売価格が上昇したことに加え、為替相場も円安で推移したため、売上高については37.3%増加の12,210百万円となった



売上高の主な増加要因

◎ 好調な市況を背景に価格が上昇

※ 輸出建値(\$)上昇

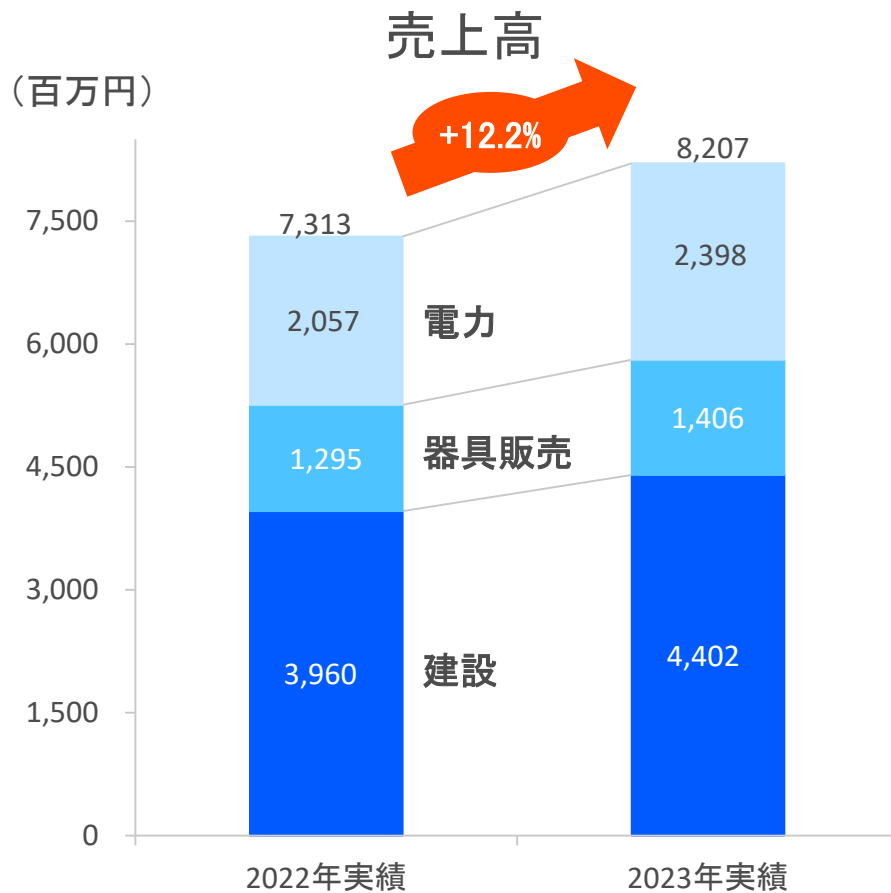
※ 為替円安の影響
2022年実績
131円/\$ (TTB)
→ 2023年実績
141円/\$ (TTB)

決算概要
2023年度決算
【ヨウ素事業：売上高】

注: 売上高には、ヨウ素、ヨウ化カリウムのほか、かん水の売上高も含まれている

2023年度決算 【その他:売上高】

建設工事の売上高の増加や電力販売量の増加などにより、売上高については12.2%増加の8,207百万円となった



売上高の主な増加要因

◎ 【建設事業】工事売上増加

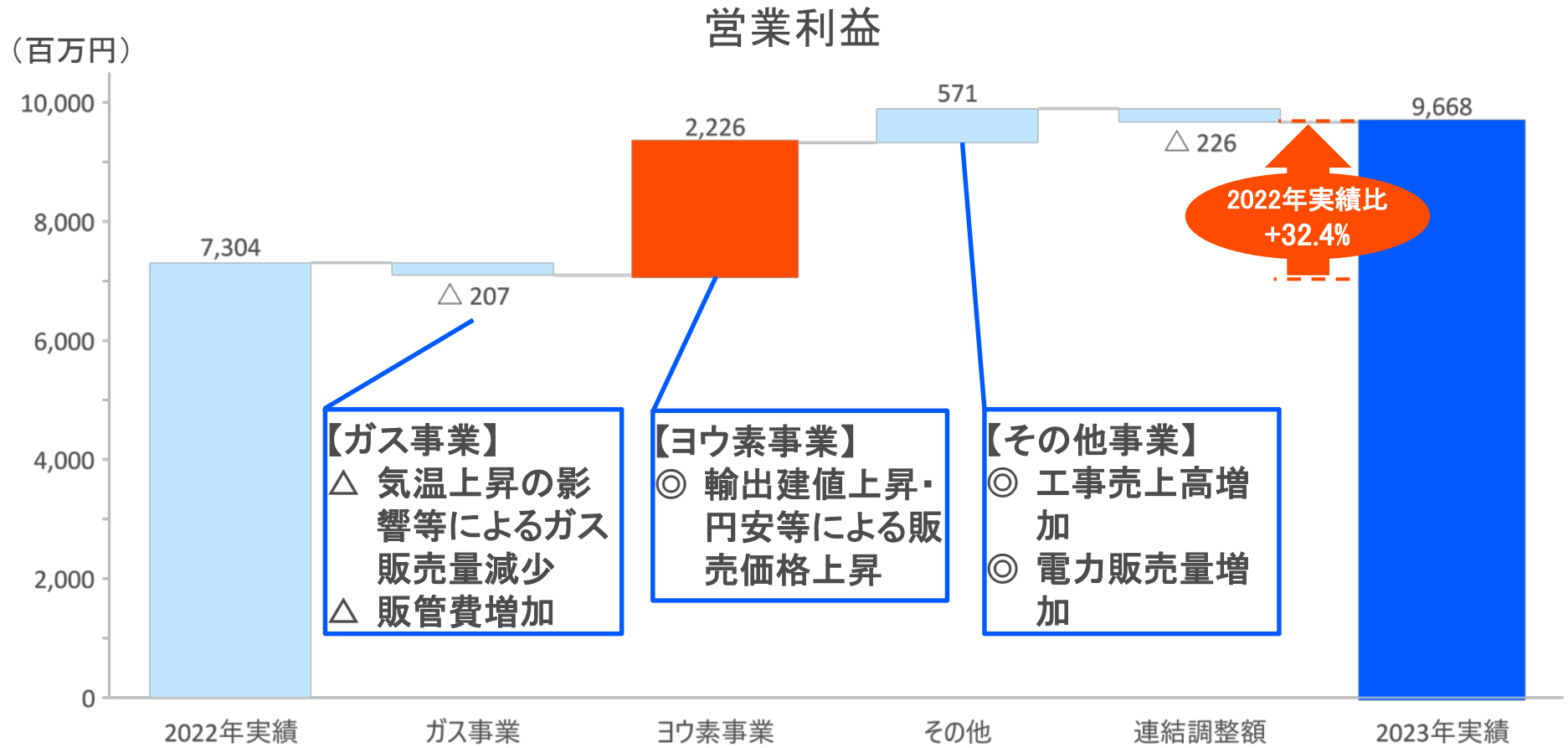
◎ 【電力事業】電力販売量増加

決算概要
2023年度決算
【その他:売上高】

2023年度決算

【営業利益】

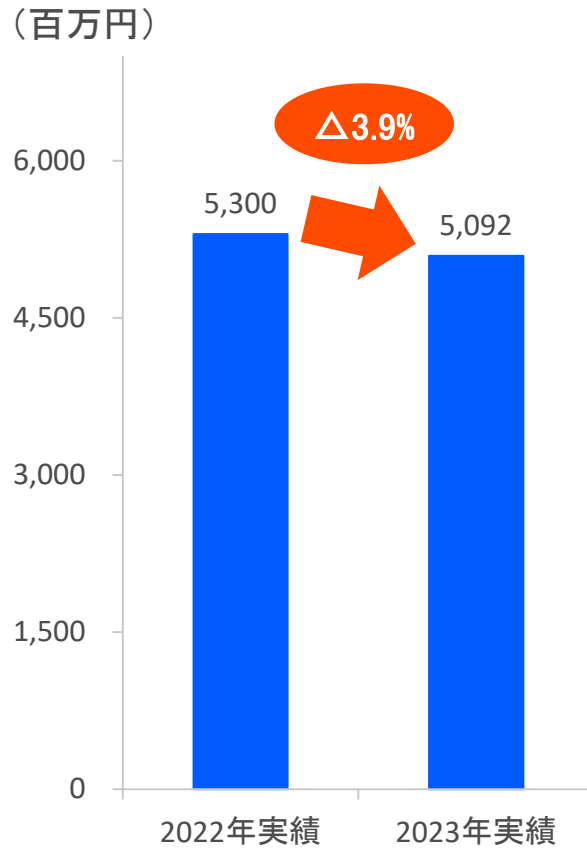
ヨウ素販売価格が上昇したことなどにより、営業利益については32.4%増加の9,668百万円となった



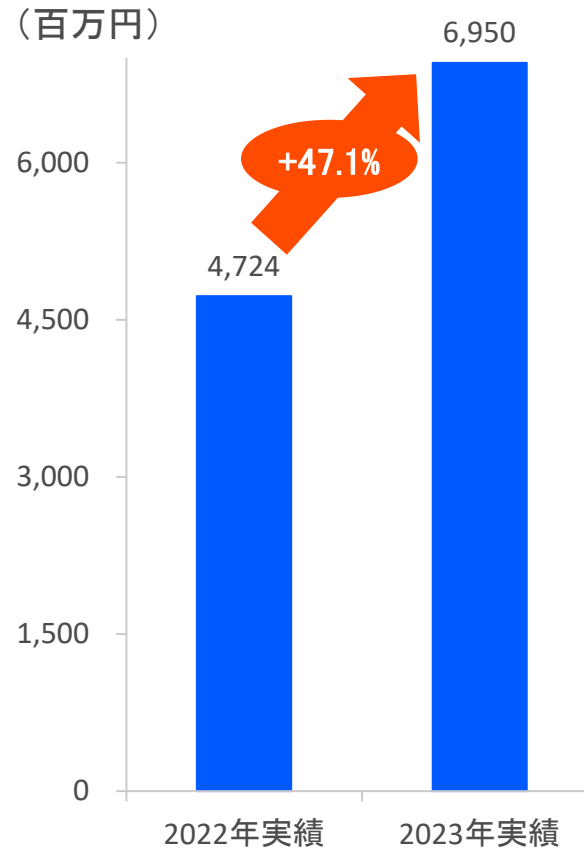
概要 決算 2023年度決算 【営業利益】

2023年度決算 【セグメント別営業利益】

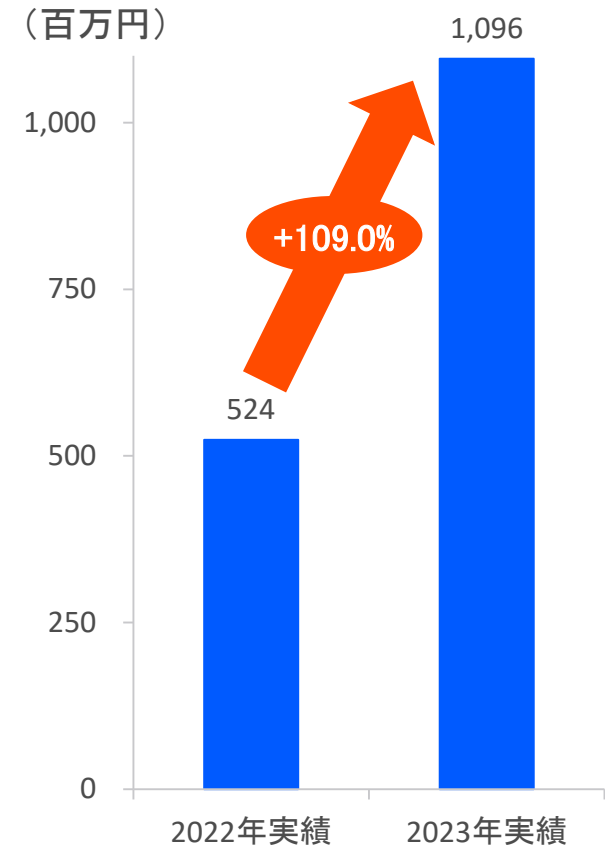
ガス事業



ヨウ素事業



その他事業



決算概要
2023年度決算
【セグメント別営業利益】

注: 連結調整額は含まず

営業利益の増加に加えて、受取配当金が増加したことなどにより、経常利益は31.2%増加の10,408百万円、当期純利益は35.6%増加の6,464百万円となった

(百万円)	2022年実績	2023年実績	比較	増減率
営業利益	7,304	9,668	+2,364	+32.4%
営業外収益	677	818	+141	
営業外費用	50	78	+28	
経常利益	7,931	10,408	+2,477	+31.2%
特別利益	-	134	+134	
特別損失	230	285	+55	
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,766	6,464	+1,697	+35.6%

【営業外収益】

◎ 受取配当金増加など

2023年度決算 【貸借対照表】

貸借対照表の主な増減要因(対2022年末比)

(百万円)

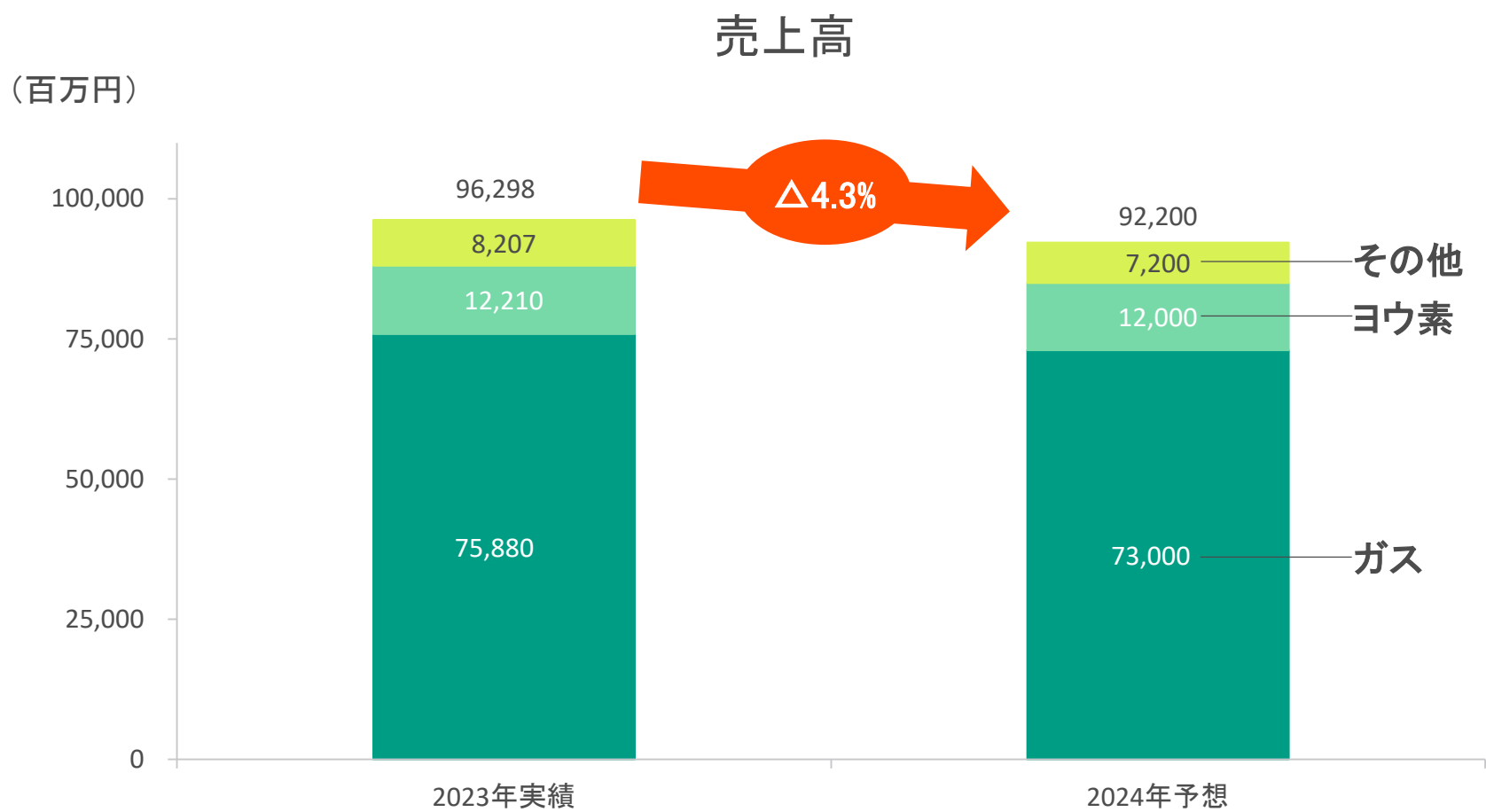
科目	2022年末	2023年末	比較	増減率	ポイント
流動資産	42,949	44,371	+1,421	+3.3%	有価証券の増加等
固定資産	66,874	67,074	+200	+0.3%	
資産合計	109,823	111,445	+1,621	+1.5%	
流動負債	17,639	12,631	△ 5,008	△28.4%	ガス買掛金の減少等
固定負債	5,798	5,885	+86	+1.5%	
負債合計	23,438	18,516	△4,922	△21.0%	
純資産	86,385	92,929	+6,544	+7.6%	
負債純資産合計	109,823	111,445	+1,621	+1.5%	

概要 決算
2023年度決算
【貸借対照表】

1. サマリー
2. 連結決算概要
3. 業績予想等
4. 【参考】グループの概要

2024年業績予想 【売上高】

輸入エネルギー価格の影響によるガス販売価格の低下や発電用途での需要減少が見込まれることなどにより、売上高は2023年実績と比べ4.3%減少の92,200百万円と予想



業績予想等
2024年業績予想
【売上高】

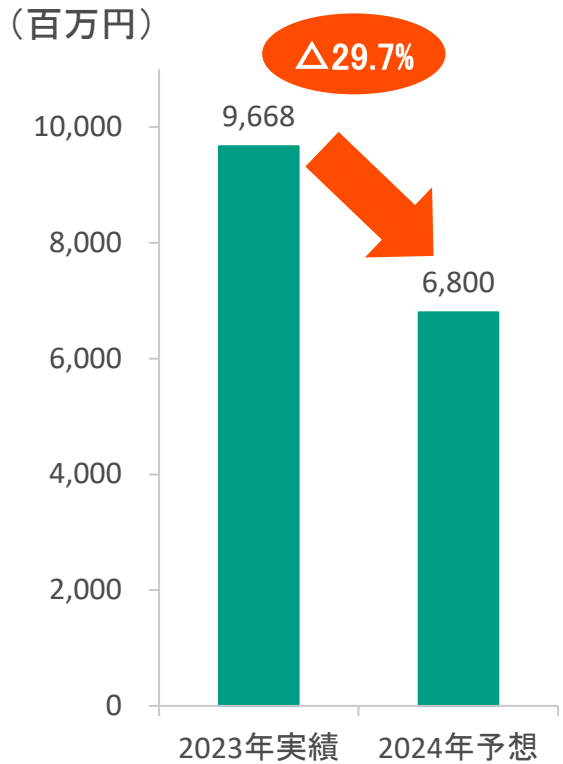
注：業績予想の説明においては、本スライド以降、特に記載のない限り増減の比較は2023年実績との比較である

2024年業績予想

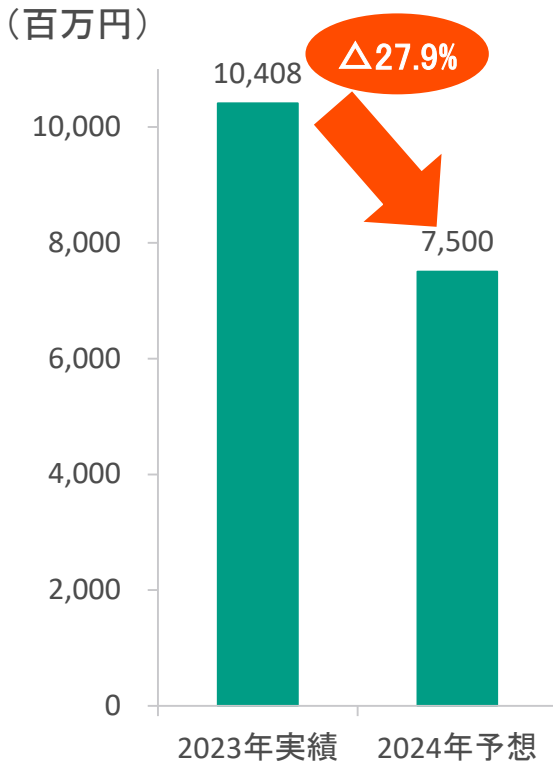
【営業利益・経常利益・当期純利益】

ヨウ素販売価格の低下を見込むなどにより、営業利益は29.7%減少の6,800百万円、経常利益は27.9%減少の7,500百万円、当期純利益は28.8%減少の4,600百万円と予想

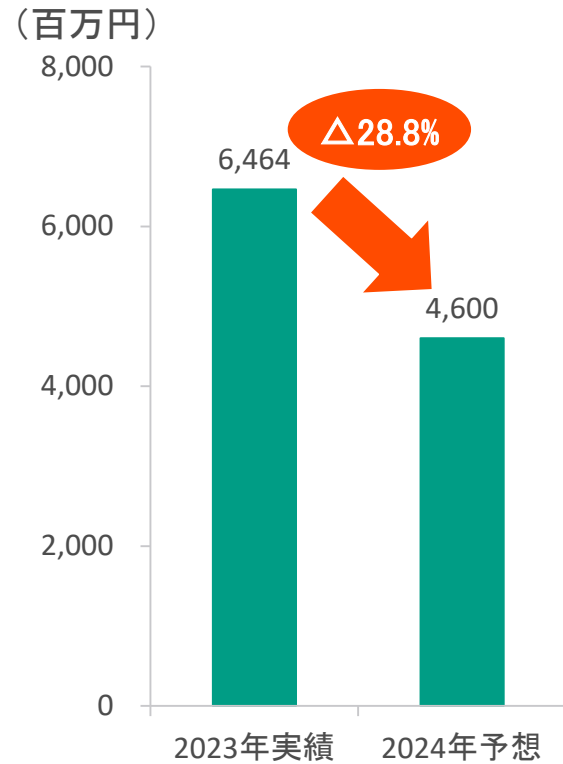
営業利益



経常利益

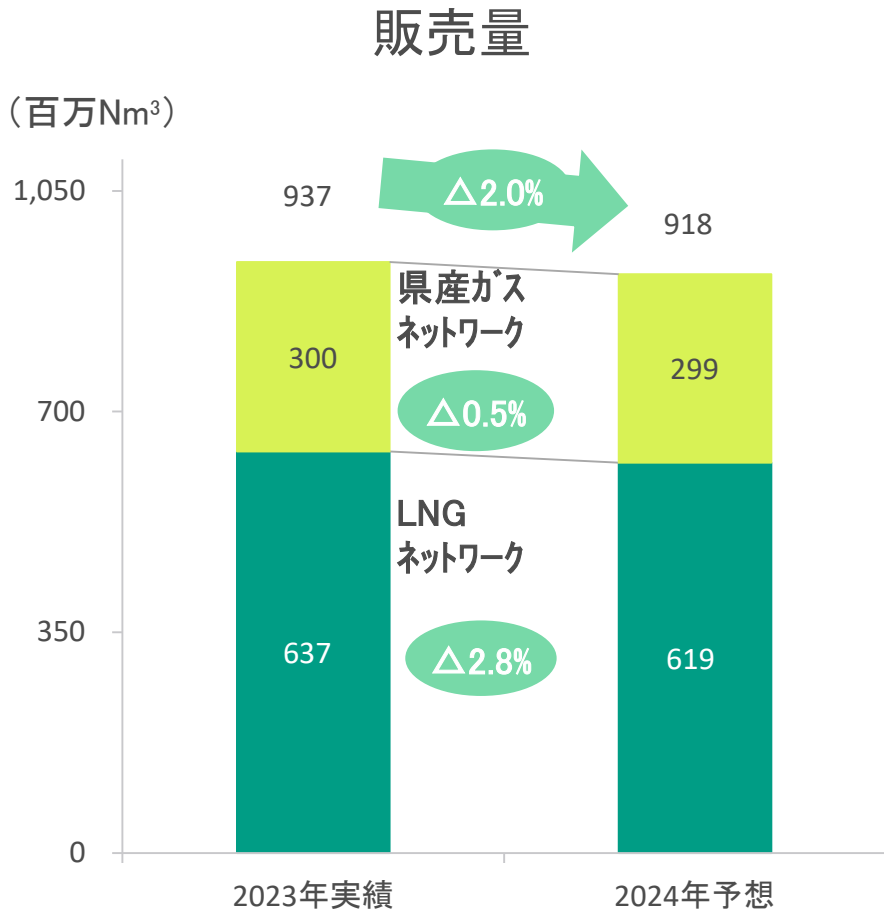


親会社株主に帰属する当期純利益



業績予想等 2024年業績予想
【営業利益・経常利益・当期純利益】

2024年業績予想 【ガス事業：販売量】



販売量の主な減少要因

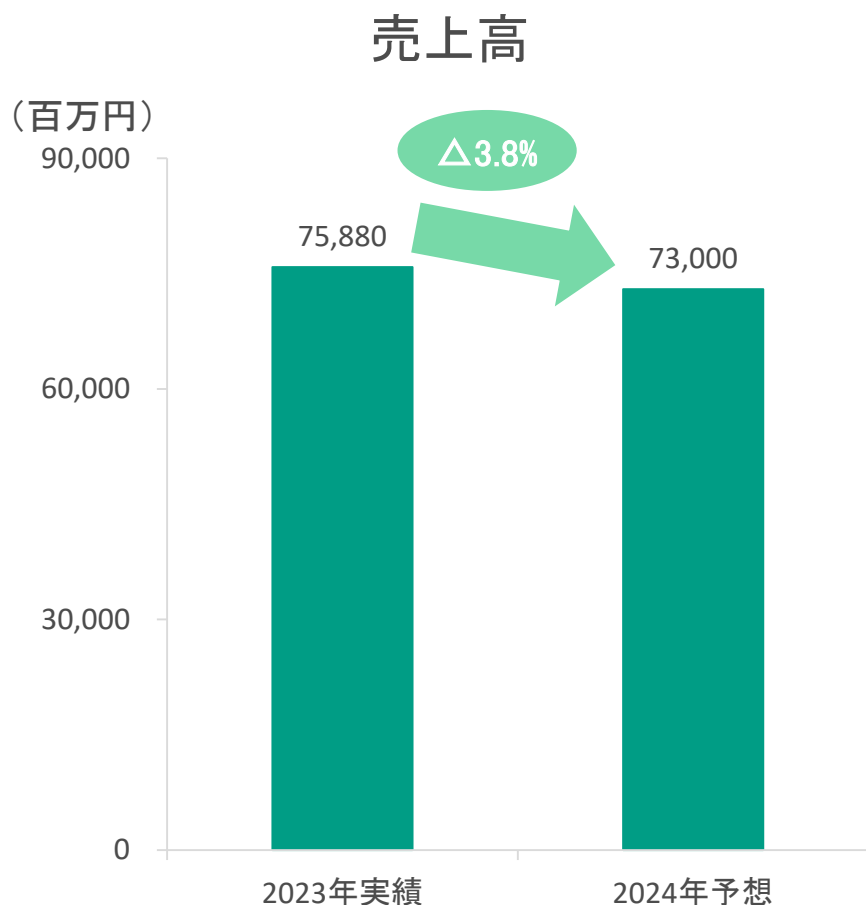
△ 発電用途での需要減少などによるLNGネットワークの販売量減少

業績予想等
2024年業績予想
【ガス事業：販売量】

2024年業績予想

【ガス事業：売上高】

輸入エネルギー価格の影響によるガス販売価格の低下や発電用途での需要減少などにより、売上高は3.8%減少の73,000百万円と予想



売上高の主な減少要因

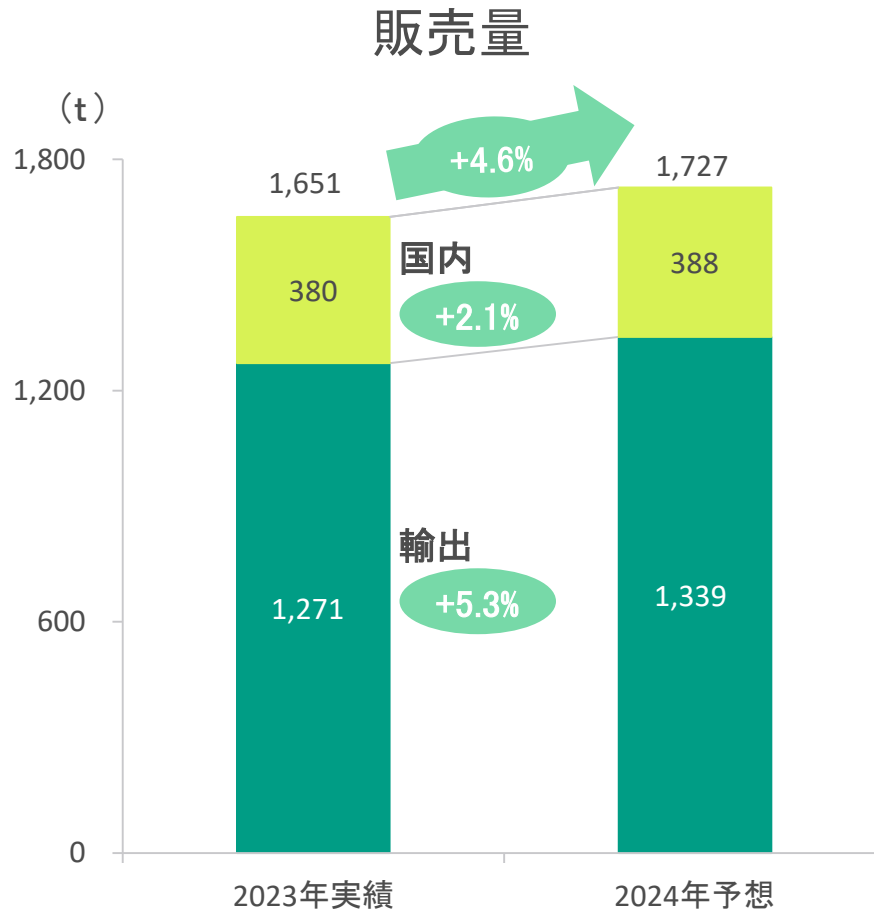
△ 輸入エネルギー価格の影響によりガス販売価格が低下

△ 発電用途での需要減少などによるLNGネットワークの販売量減少

※ LNG-CIF適用価格：
2023年実績 103千円/t
→2024年見込 100千円/t

2024年業績予想

【ヨウ素事業：販売量】



販売量の主な増加要因

◎ 出荷時期のズレにより発生した2023年在庫分を上期出荷予定

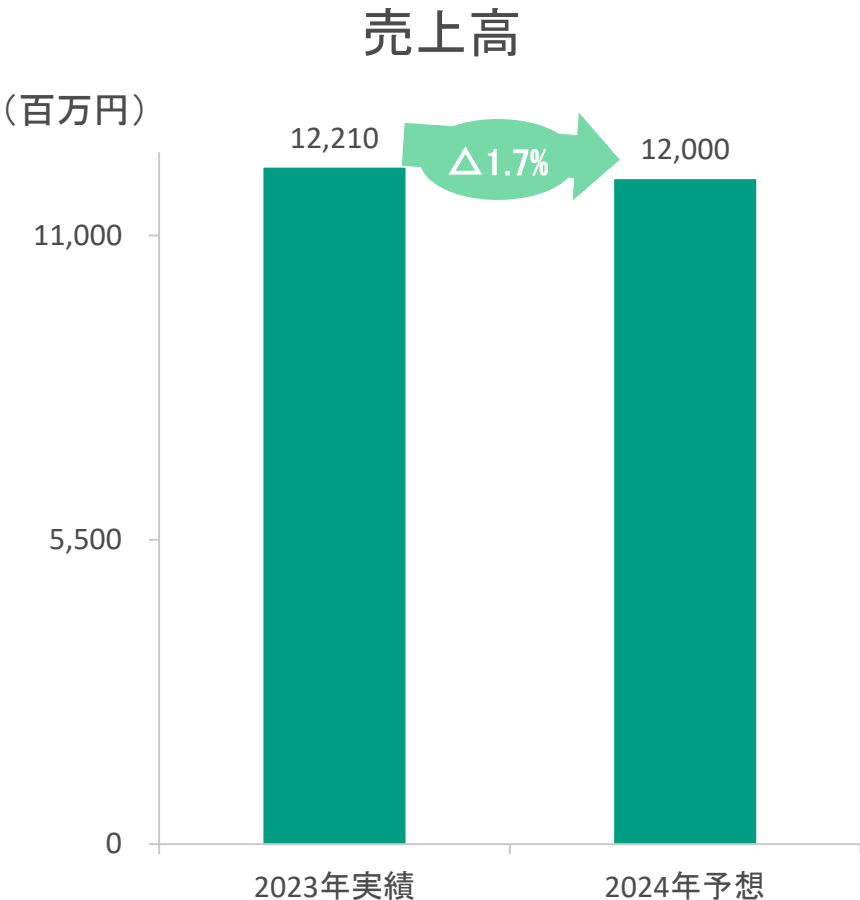
業績予想等 2024年業績予想【ヨウ素事業：販売量】

注：販売量には、ヨウ素のほか、ヨウ化カリウムも含まれている

2024年業績予想

【ヨウ素事業：売上高】

ヨウ素販売価格の低下を見込むことなどにより、売上高は1.7%減少の12,000百万円と予想



売上高の主な減少要因

△ ヨウ素販売価格の低下を見込む

※ 輸出建値(\$)下落

※ 為替は同程度を見込む
2023年実績
141円/\$ (TTB)
↓
2024年見込
141円/\$ (TTB)

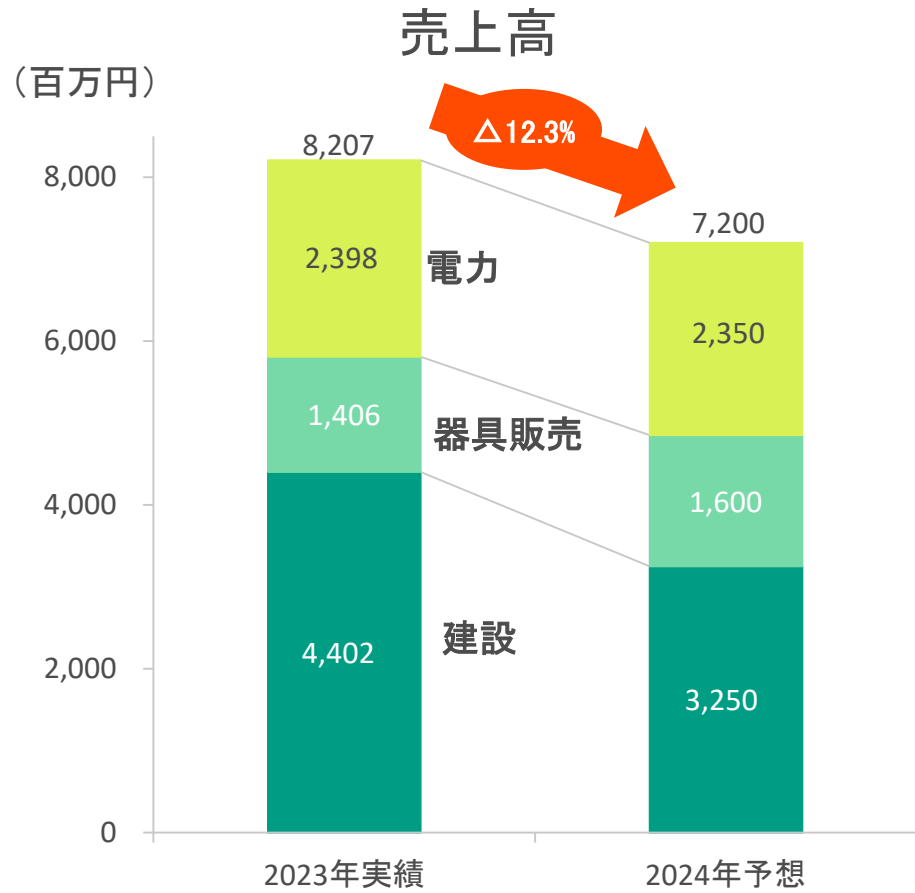
業績予想等
2024年業績予想
【ヨウ素事業：売上高】

注：売上高には、ヨウ素、ヨウ化カリウムのほか、かん水の売上高も含まれている

2024年業績予想

【その他:売上高】

器具販売事業の売上高の増加を見込むものの、建設事業の売上高の減少を見込むことなどにより、売上高は12.3%減少の7,200百万円と予想



売上高の主な増減要因

◎ 【器具販売事業】器具売上増加

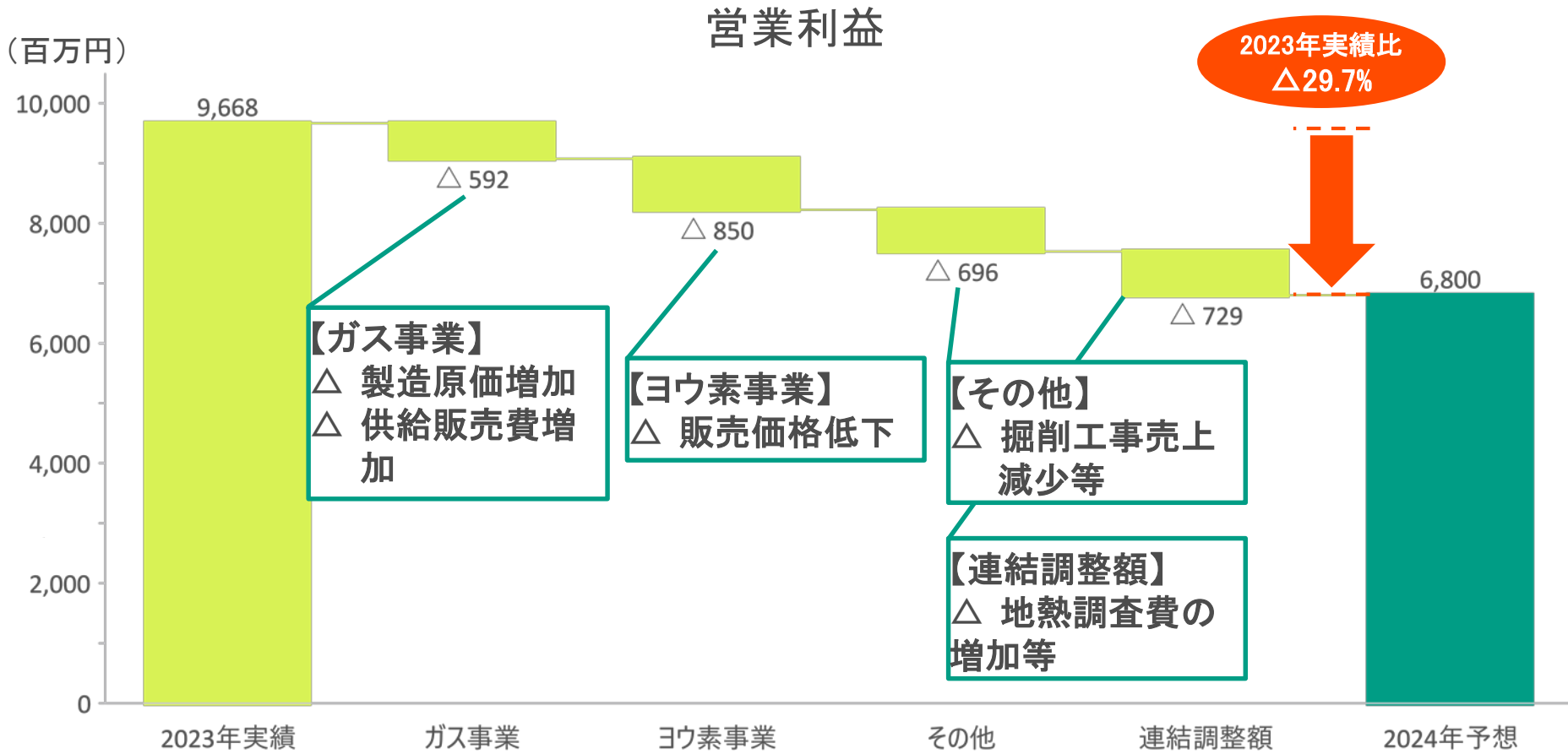
△ 【建設事業】掘削工事売上減少

業績予想等
2024年業績予想
【その他:売上高】

2024年業績予想

【営業利益】

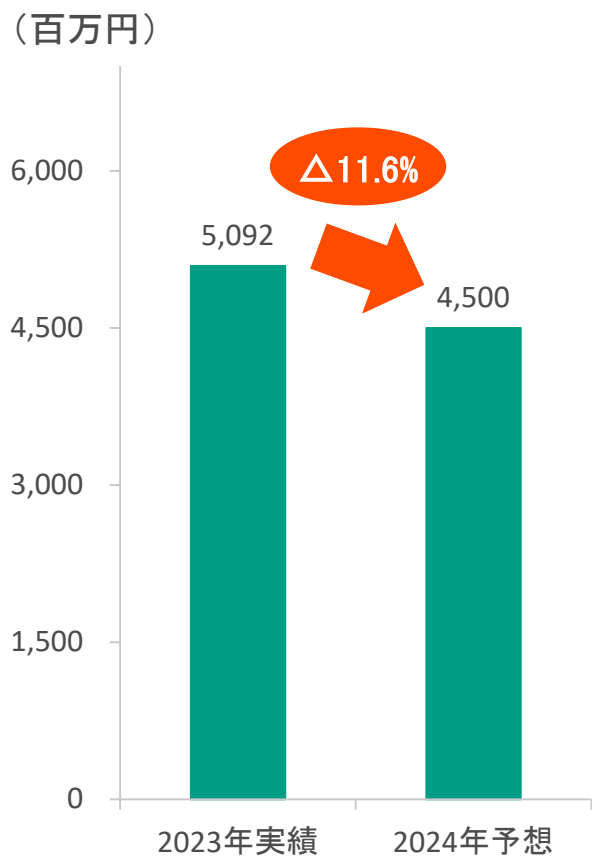
ヨウ素販売価格の低下を見込むことなどにより、営業利益は29.7%減少の6,800百万円と予想



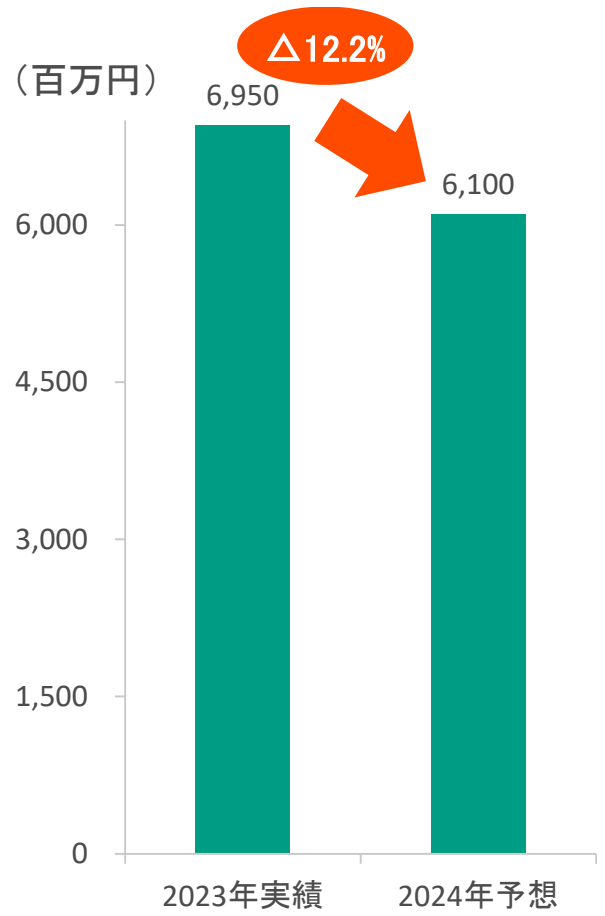
業績予想等
2024年業績予想
【営業利益】

2024年業績予想 【セグメント別営業利益】

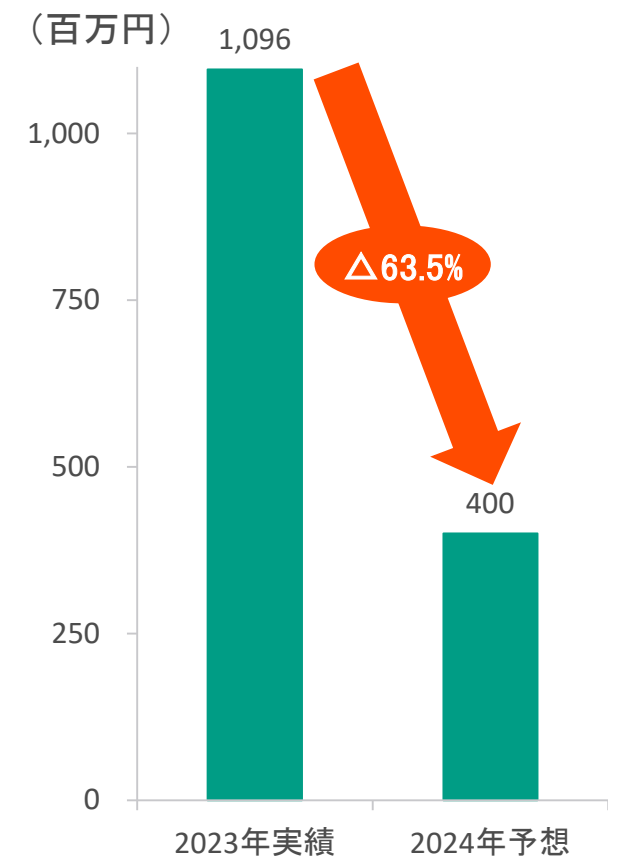
ガス事業



ヨウ素事業



その他事業



業績予想等
【セグメント別営業利益】
2024年業績予想

注: 連結調整額は含まず

2024年業績予想

【経常利益・当期純利益】

営業利益の減少に加えて、営業外収益の減少などにより、経常利益は27.9%減少の7,500百万円、当期純利益は28.8%減少の4,600百万円と予想

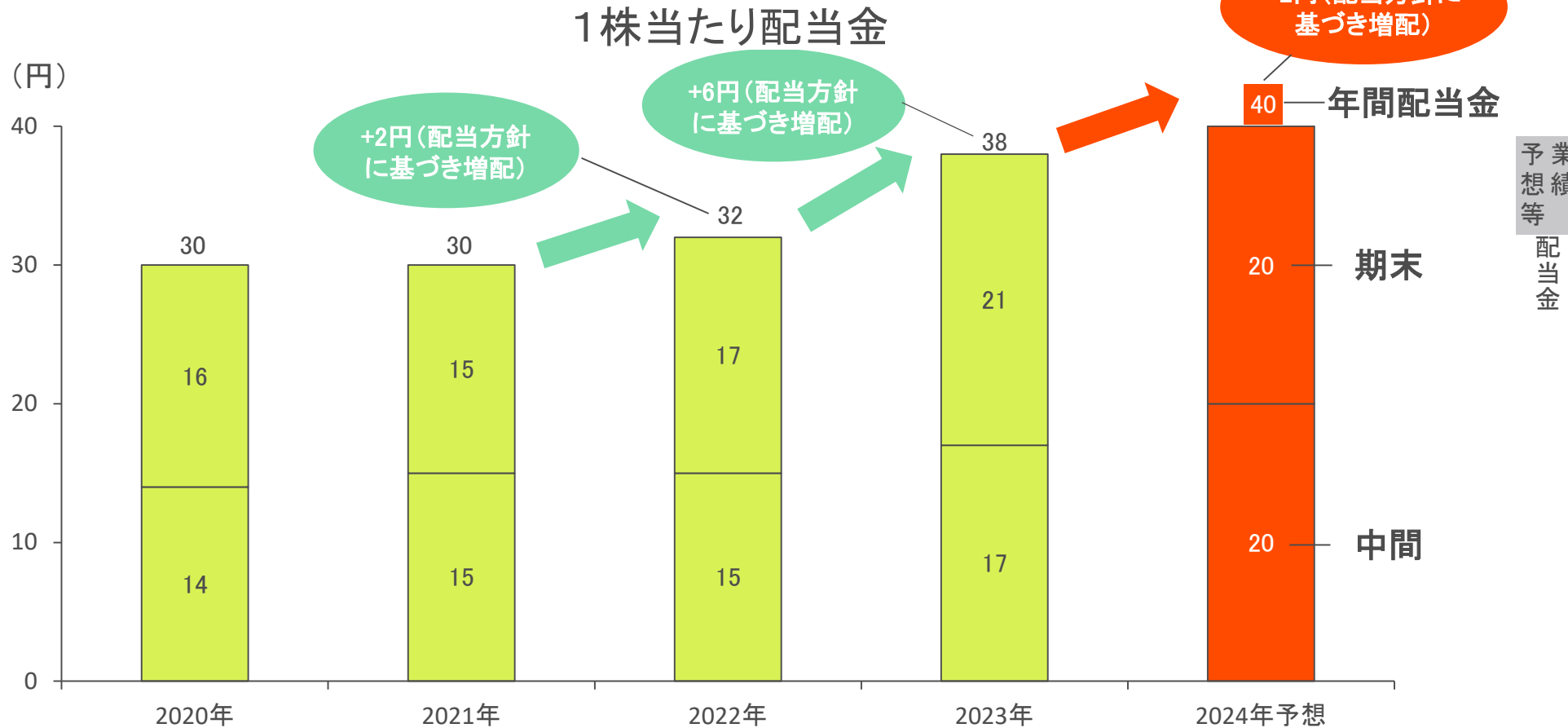
(百万円)	2023年実績	2024年予想	比較	増減率
営業利益	9,668	6,800	△2,868	△29.7%
営業外収益	818	710	△108	
営業外費用	78	10	△68	
経常利益	10,408	7,500	△2,908	△27.9%
特別利益	134	200	65	
特別損失	285	200	△85	
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,464	4,600	△1,864	△28.8%

【営業外収益】
◎ 受取配当金減少など

業績
予想等
2024年業績予想
【経常利益・当期純利益】

配当金

安定配当を基本方針としつつ、中長期の業績、株主資本配当率(DOE) 及びフリーキャッシュ・フロー等を勘案し、継続的な株主還元の充実を目指す。2024年の配当は、当該方針に基づき、業績予想も勘案の上、40円とする予定



資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について【2/14適時開示】

サマリー

決算
概要

業績
予想等

グループ
概要

K&O エナジーグループ

現状分析・評価

- 当社の株主資本コストは4～5%程度と認識
- 天然ガス開発・都市ガス事業の社会インフラ基盤をもつことから総資産が大きく、また社会インフラ企業として財務の健全性を高めたことにより自己資本比率が高く、結果としてROEは低い状態
- 2021年度までROEは3%台が続き、株主資本コストを下回っていた
- 2022年度以降は業績向上によりROEが上昇し、2023年度は7.4%まで水準を上げており株主資本コストを上回っている
- 前述のとおり自己資本比率は高水準にあり、直近で株価が上昇したものの依然としてPBRは1倍を下回る状況
- 2023年度末のPBRは約0.7倍となっており株価は割安で推移している

業績予想等
資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

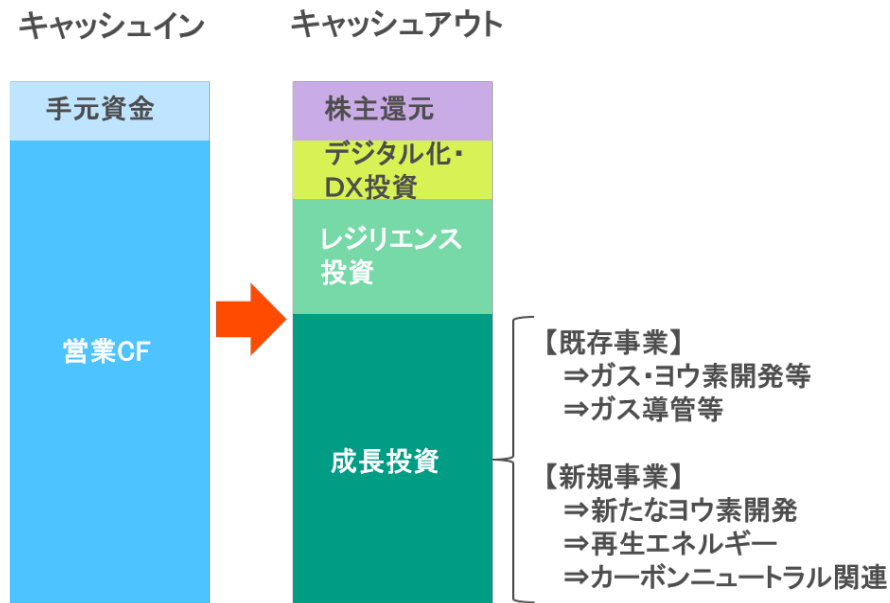
資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について【2/14適時開示】

方針

- 重点分野への積極的投資や継続的な株主還元の充実等により、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を実現することを基本方針
- 資本コストを上回る資本収益性を維持するために、当該コストを定期的に把握・検証するとともに、財務の健全性を確保しつつ、当社にとって、最適な資本配分を追求

取り組み

- キャピタル・アロケーションを適切に管理し、成長投資、レジリエンス投資（災害時でも安定供給を実現するための設備更新等）、デジタル化・DX投資等および株主還元を戦略的に配分し、事業の成長と資本収益性の向上を図る

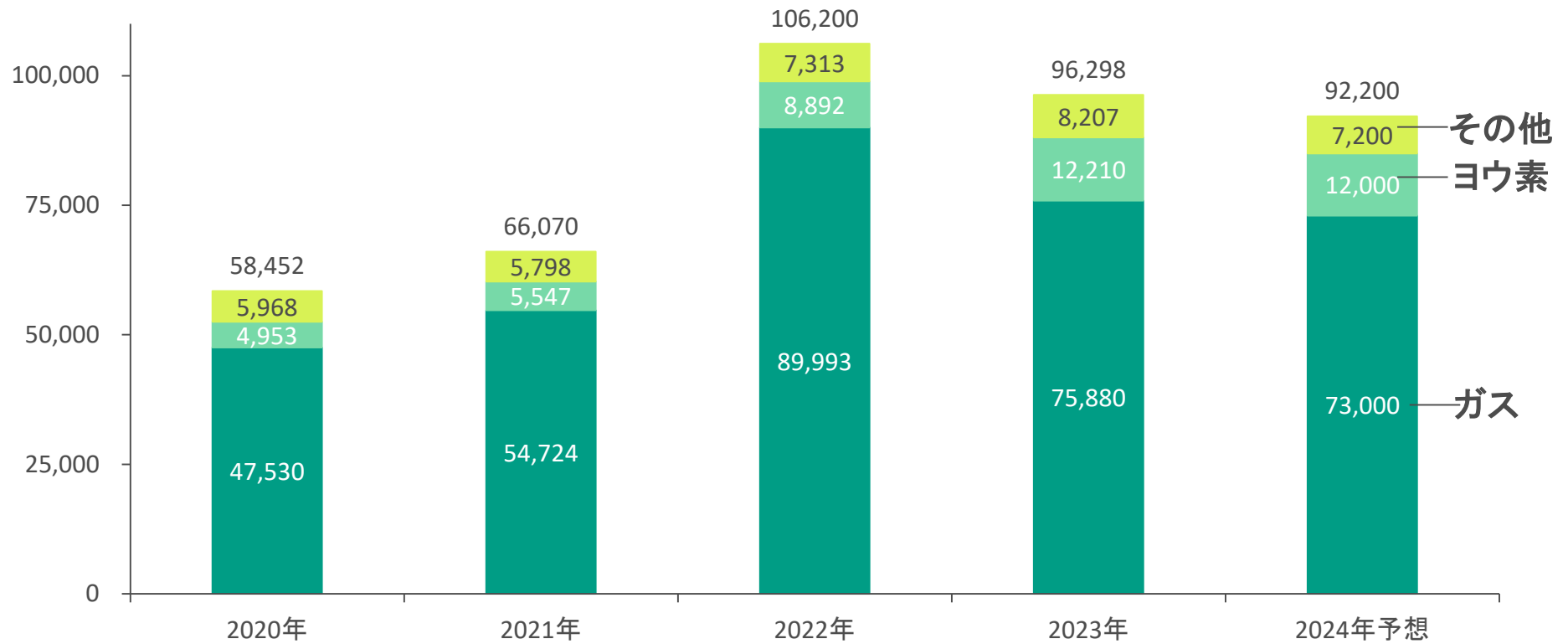


業績予想等
資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

【補足資料】 売上高の推移

売上高

(百万円)

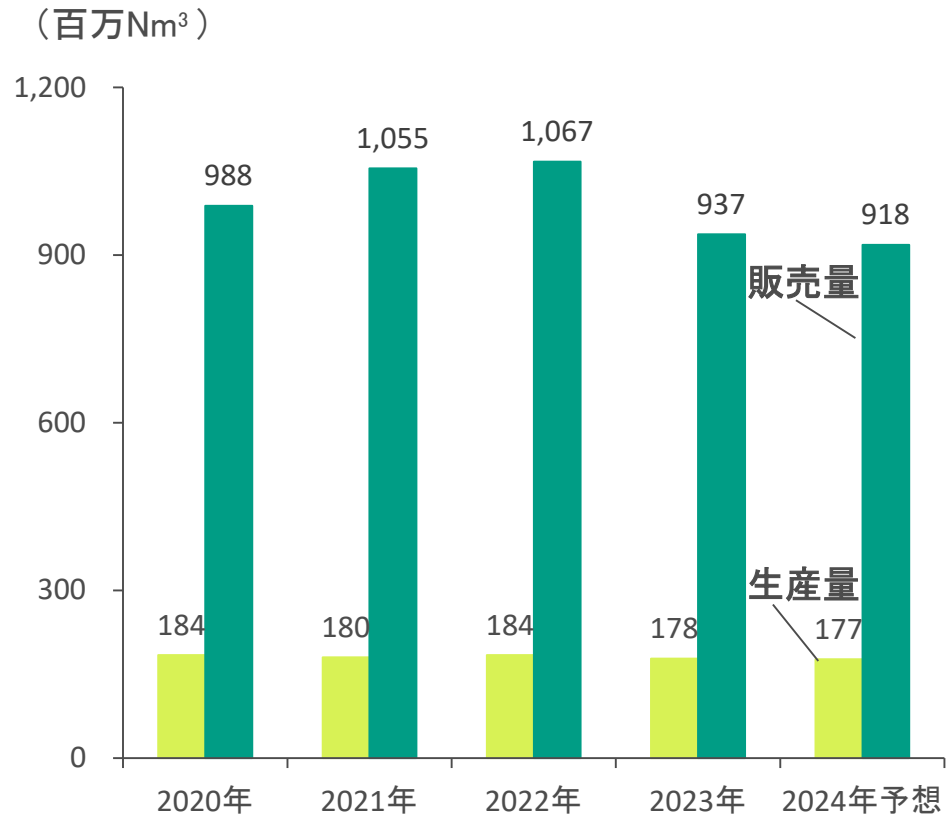


業績等
予想等
売上高の推移
【補足資料】

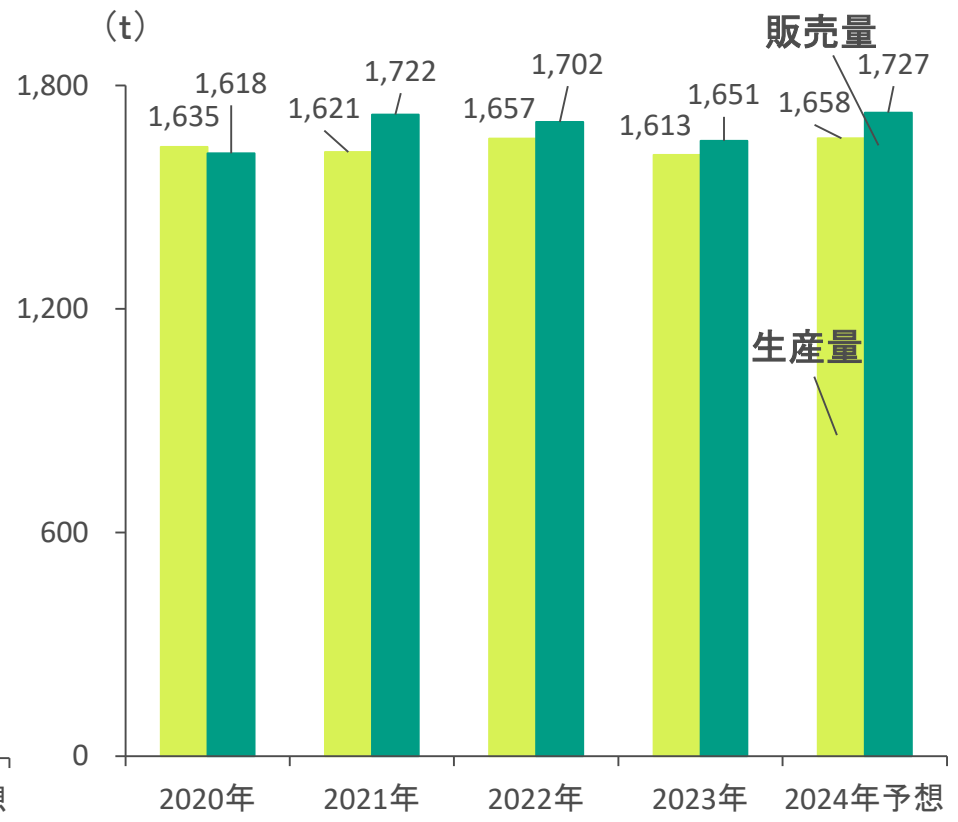
【補足資料】

生産量・販売量の推移

ガス生産量・販売量



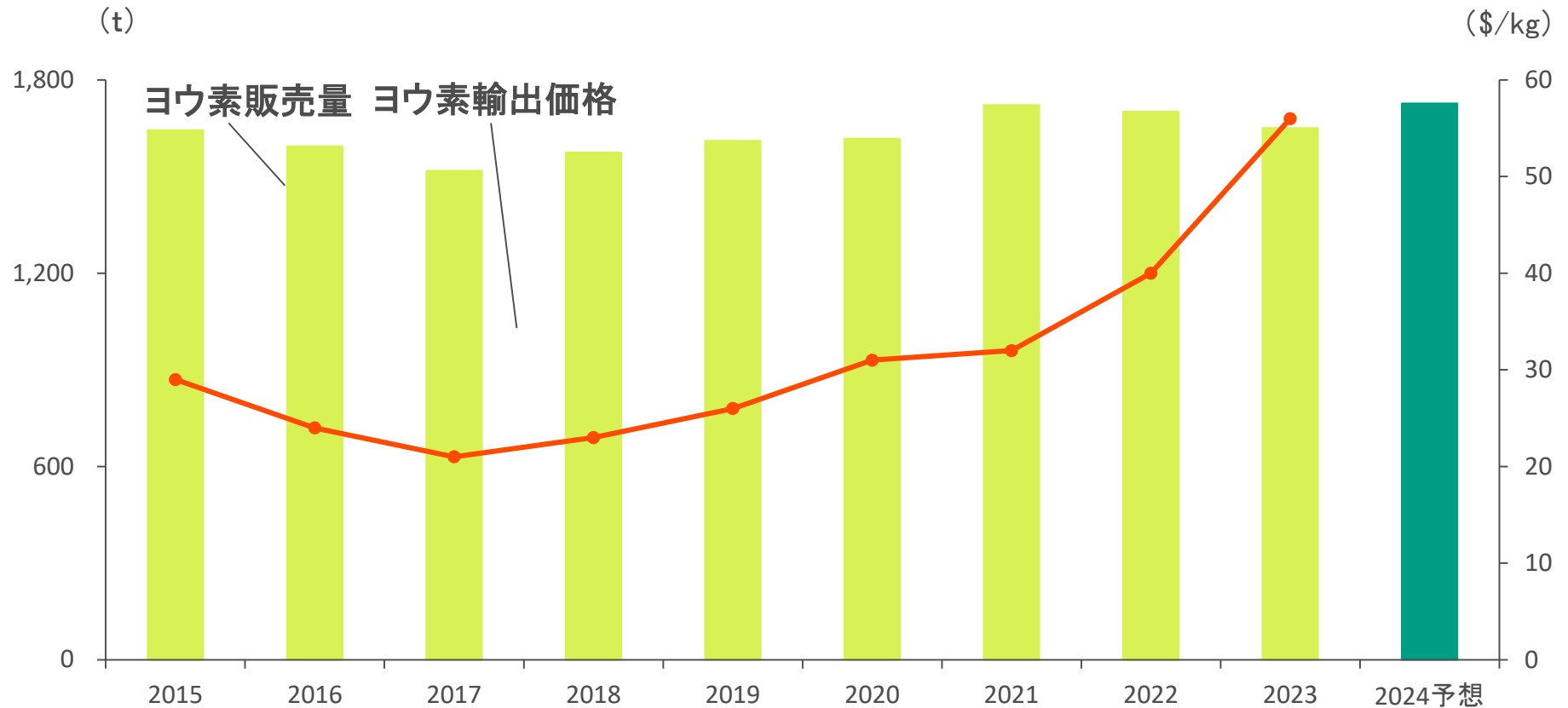
ヨウ素生産量・販売量



業績等
【補足資料】
生産量・販売量の推移

注: ガスは39MJ/N・m³換算。生産量と販売量の差は購入量。ヨウ素販売量には、ヨウ素のほか、ヨウ化カリウムも含まれている

ヨウ素販売量(当社グループ)とヨウ素輸出価格

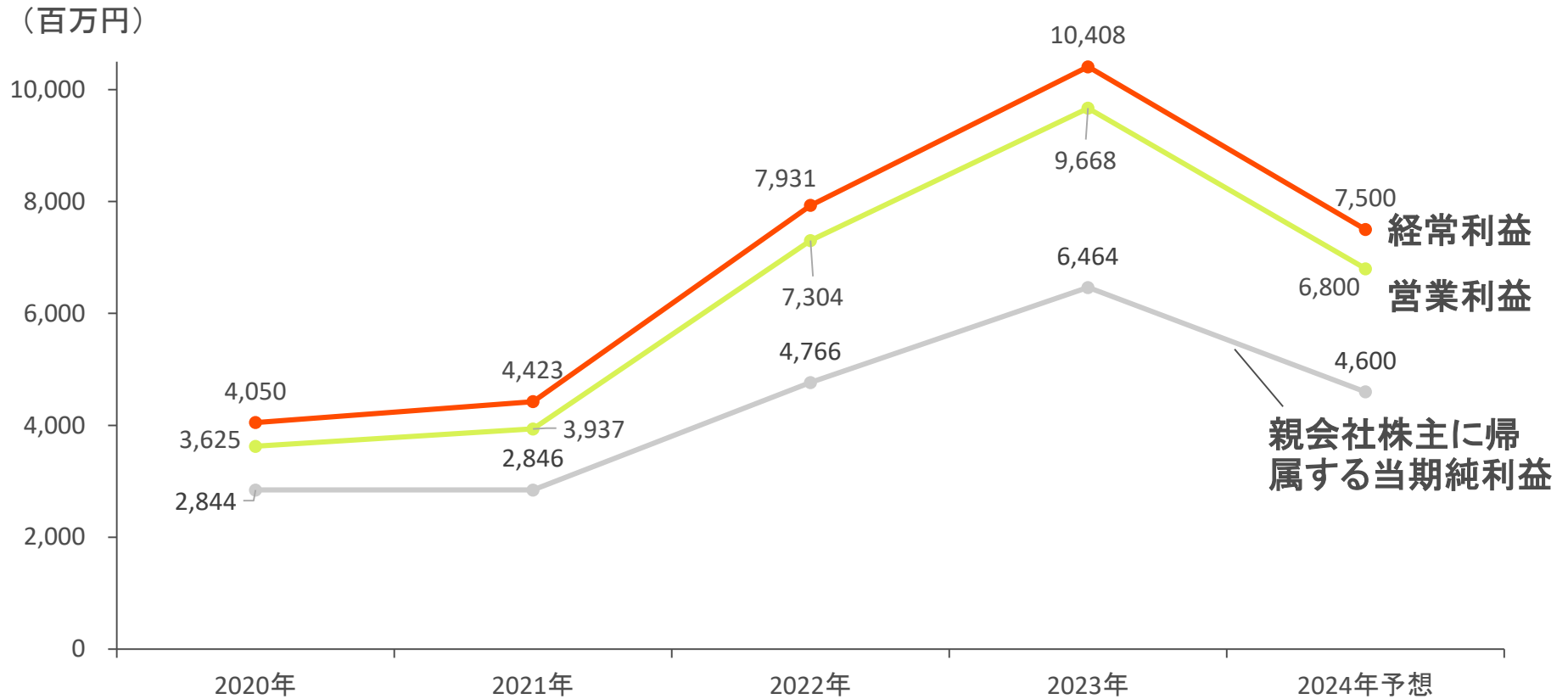


業績予想等
【補足資料】
ヨウ素関係資料

注: ヨウ素販売量には、ヨウ素のほか、ヨウ化カリウムも含まれている。 2024年のヨウ素販売量は予想値。ヨウ素輸出価格は輸出通関統計価格をもとに当社で算出

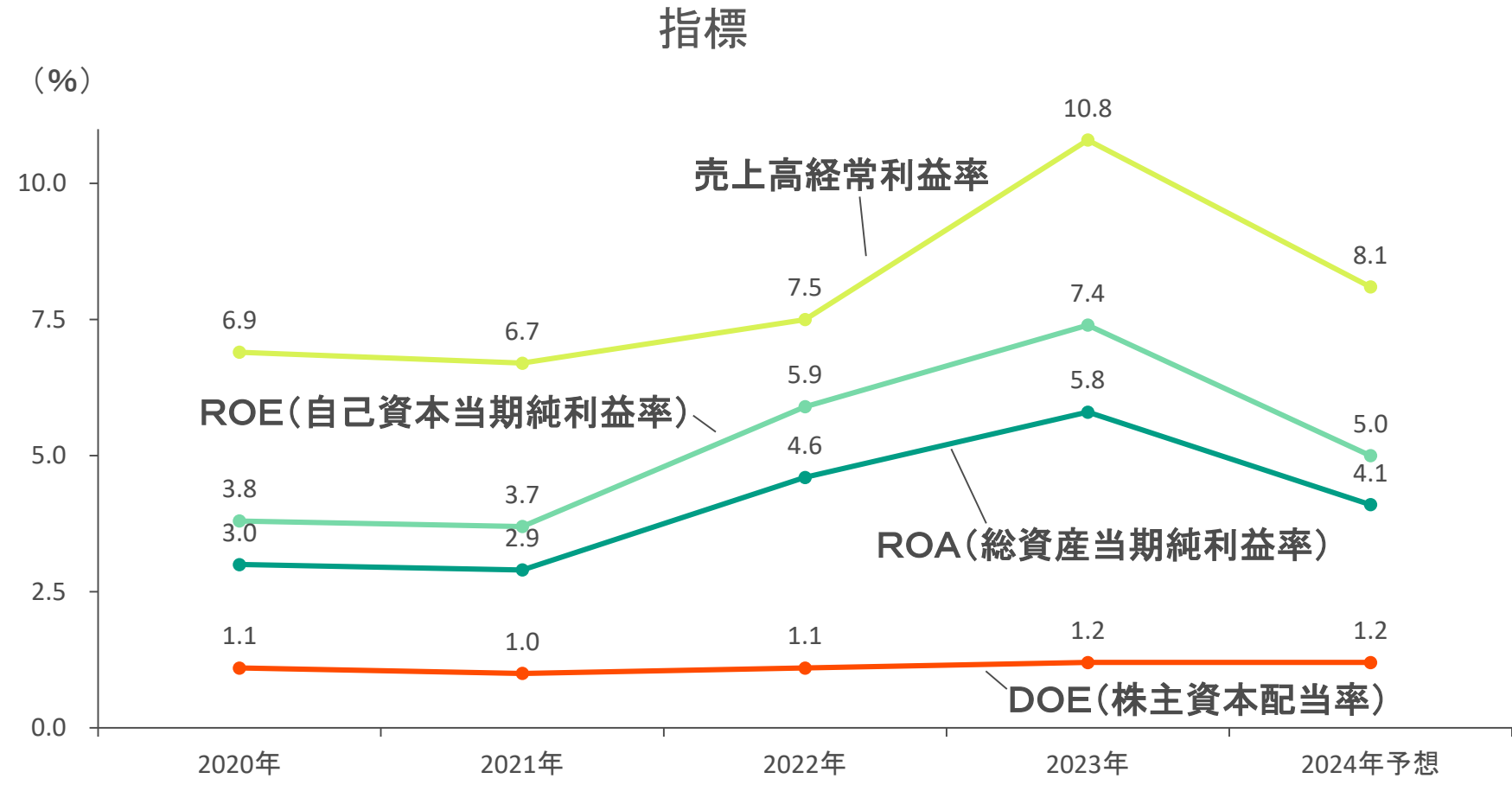
【補足資料】 利益の推移

利益



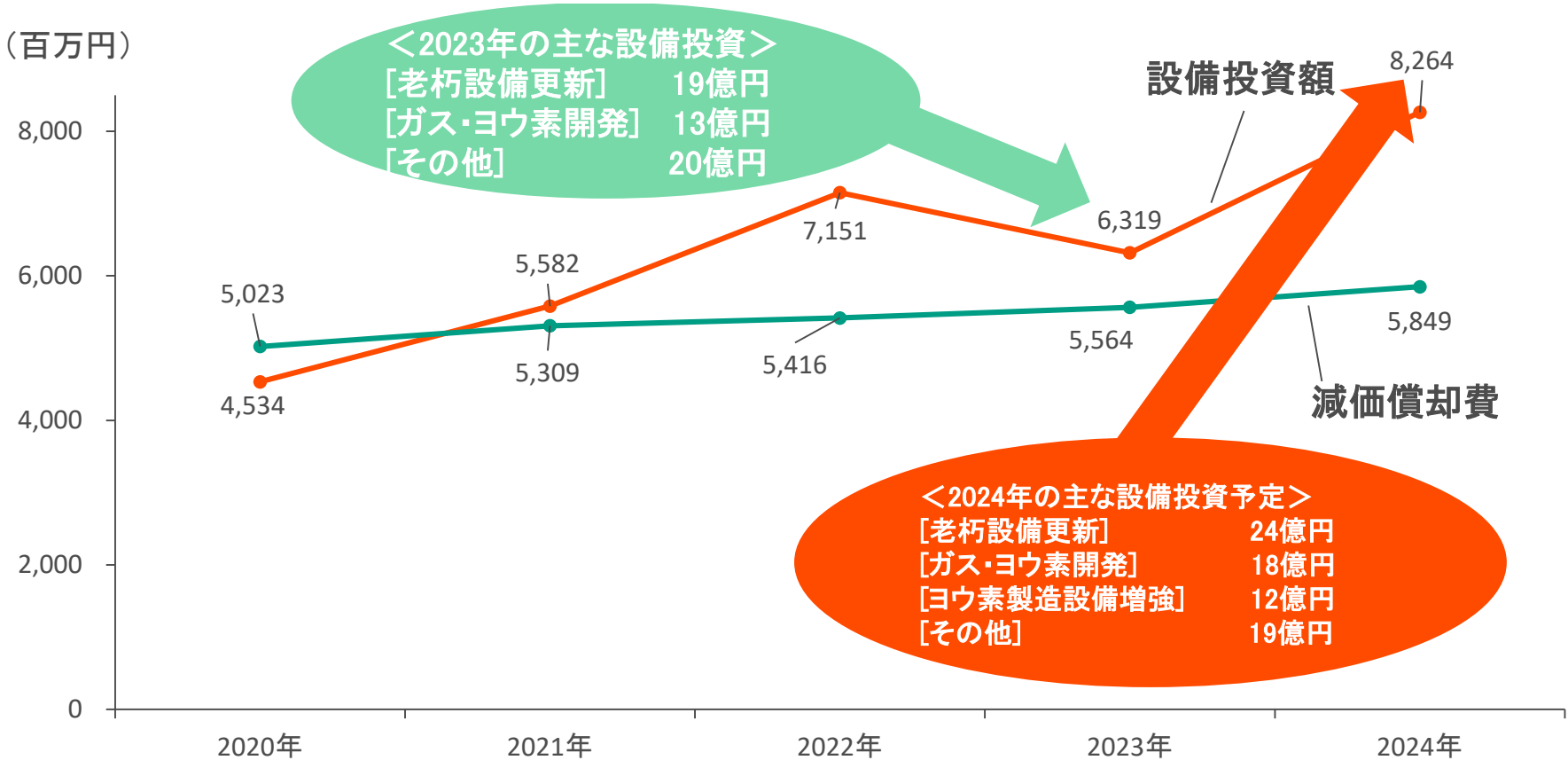
業績予想等
利益の推移
【補足資料】

【補足資料】 指標の推移



業績予想等
【補足資料】
指標の推移

設備投資額・減価償却費



業績等
設備投資額・減価償却費の推移
【補足資料】

注：設備投資額には、無形固定資産、土地を含む。[老朽設備更新]にはBCPを含む。

目次

1. サマリー
2. 連結決算概要
3. 業績予想等
4. 【参考】グループの概要

当社グループの構成

「ガス事業」として、天然ガスの生産から都市ガス供給までを一貫して行っており、また「ヨウ素事業」として、ヨウ素の製造・販売等を行っている

当社の連結子会社

会社名	関東天然瓦斯開発(株)	大多喜ガス(株)	K&Oヨウ素(株)	(株)WELMA
主な事業	<ul style="list-style-type: none"> ● 天然ガスの生産・販売 ● かん水の販売 	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市ガスの供給・販売 ● LPガスの販売 ● 圧縮天然ガスの製造・販売 ● 電気の供給・販売 	<ul style="list-style-type: none"> ● ヨウ素の製造・販売 ● ヨウ素化合物の製造・販売 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地熱井等の掘削
イメージ画像	 <p>ガス井</p>	 <p>ガスホルダー</p>	 <p>ヨウ素製造設備</p>	 <p>槽(やぐら)</p>

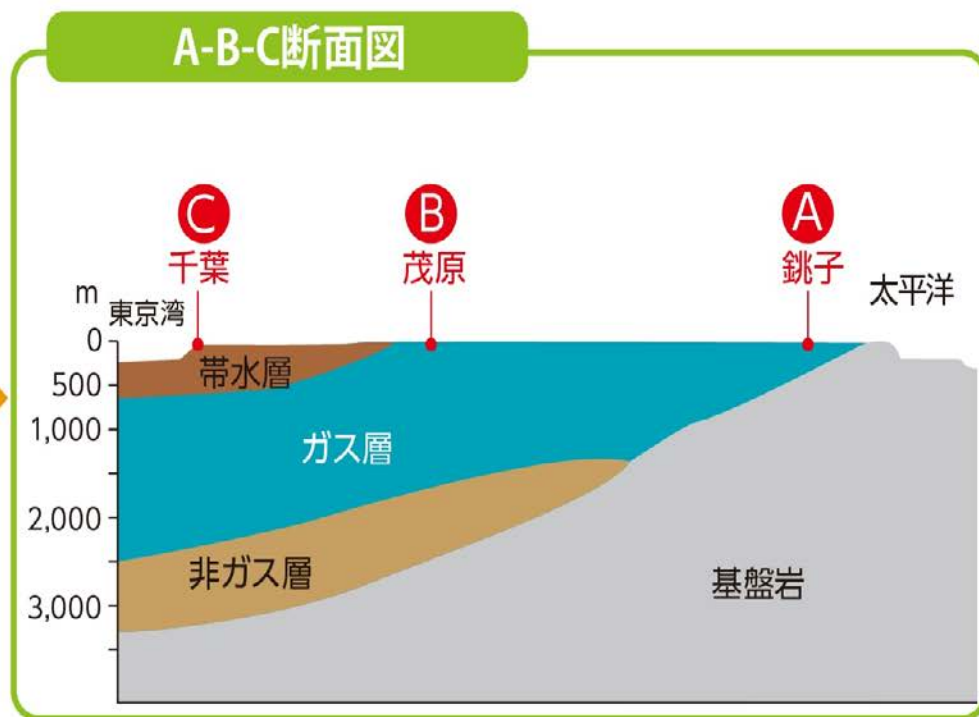
概要
グループ

当社グループの構成

南関東ガス田①

「南関東ガス田」は国内最大の水溶性天然ガス田である

■ 当グループの主な採取地域および
県産天然ガス主要ガスパイプライン



概要
グループ
南関東ガス田①

南関東ガス田②

「南関東ガス田」のうち、当社グループ鉱区内における可採埋蔵量等

ガス可採埋蔵量

- 約1,100億 m^3
 - 現在の生産量で計算すると**約600年分**の埋蔵量

ヨウ素可採埋蔵量

- 約64万t
 - 現在の生産量で計算すると**約400年分**の埋蔵量

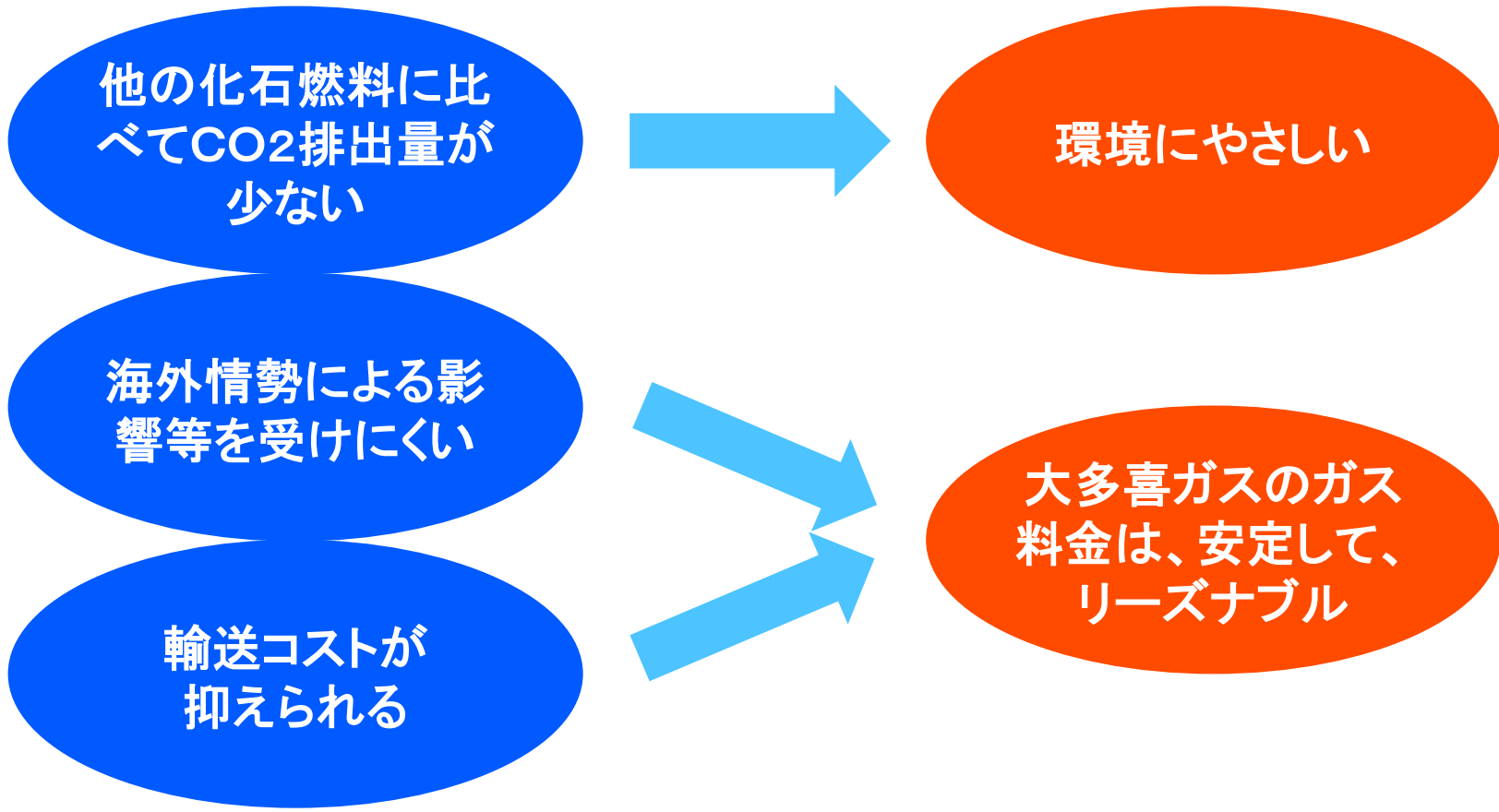
参考

国内天然ガス年間生産量 : 22.6億 m^3 (2022年度)
 国内ヨウ素年間生産量 : 1.0万t(2022年1月～12月)
 世界ヨウ素年間生産量 : 3.5万t(2022年1月～12月/一部推定値)

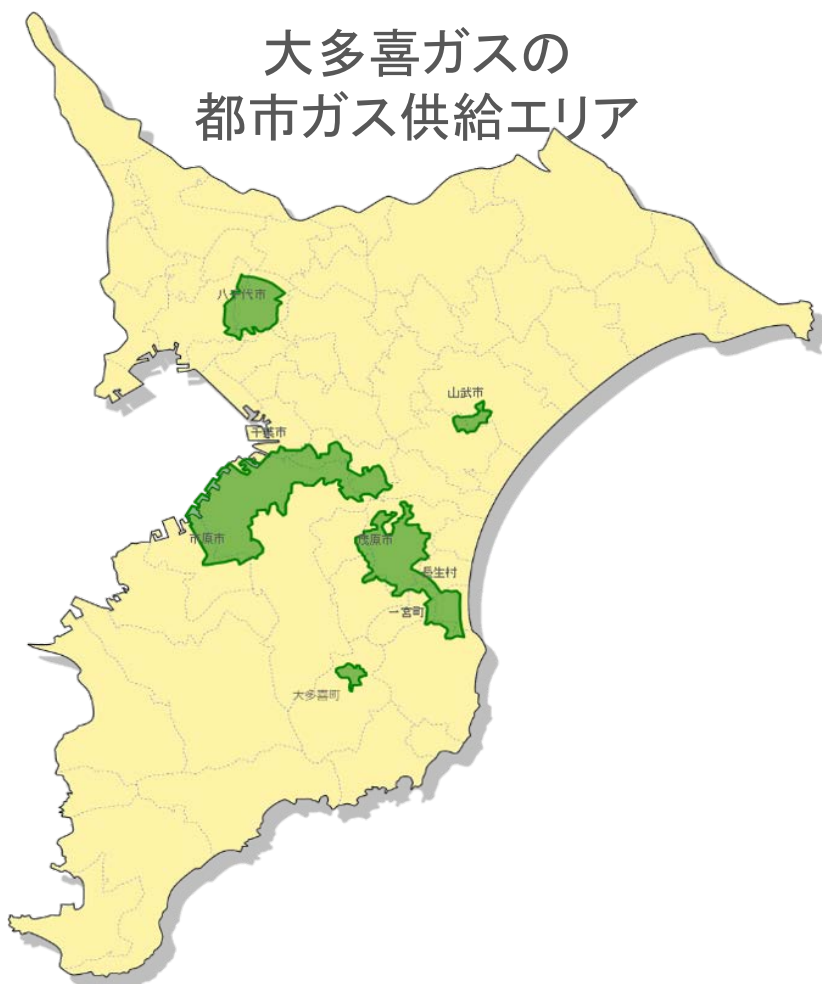
千産千消(地産地消)天然ガス

天然ガスを千葉県で産出して千葉県で消費する、いわゆる千産千消を行っている

千産千消天然ガスのメリット



概要 グループ千産千消(地産地消)天然ガス



千葉県内の都市ガス事業者数 (2023年4月1日現在)

・17事業者 (私営11 + 公営6)

※旧一般ガス事業者のうち、ガス小売事業と一般ガス導管事業を営む者の数。

大多喜ガスの都市ガスの現況 (2023年実績)

・お客さま件数: 181,218件

※メーター取付数 (2023年12月末)

・ガス販売量: 770百万 m^3

【参考】全国の都市ガス事業

・一般ガス導管事業者数 (2022年3月末)

193社 (私営173 + 公営20) (注1)

・お客さま件数: 31,360千件

※メーター取付数 (2021年12月末) (注1)

・ガス販売量: 1,414,950百万MJ (36,281百万 m^3)

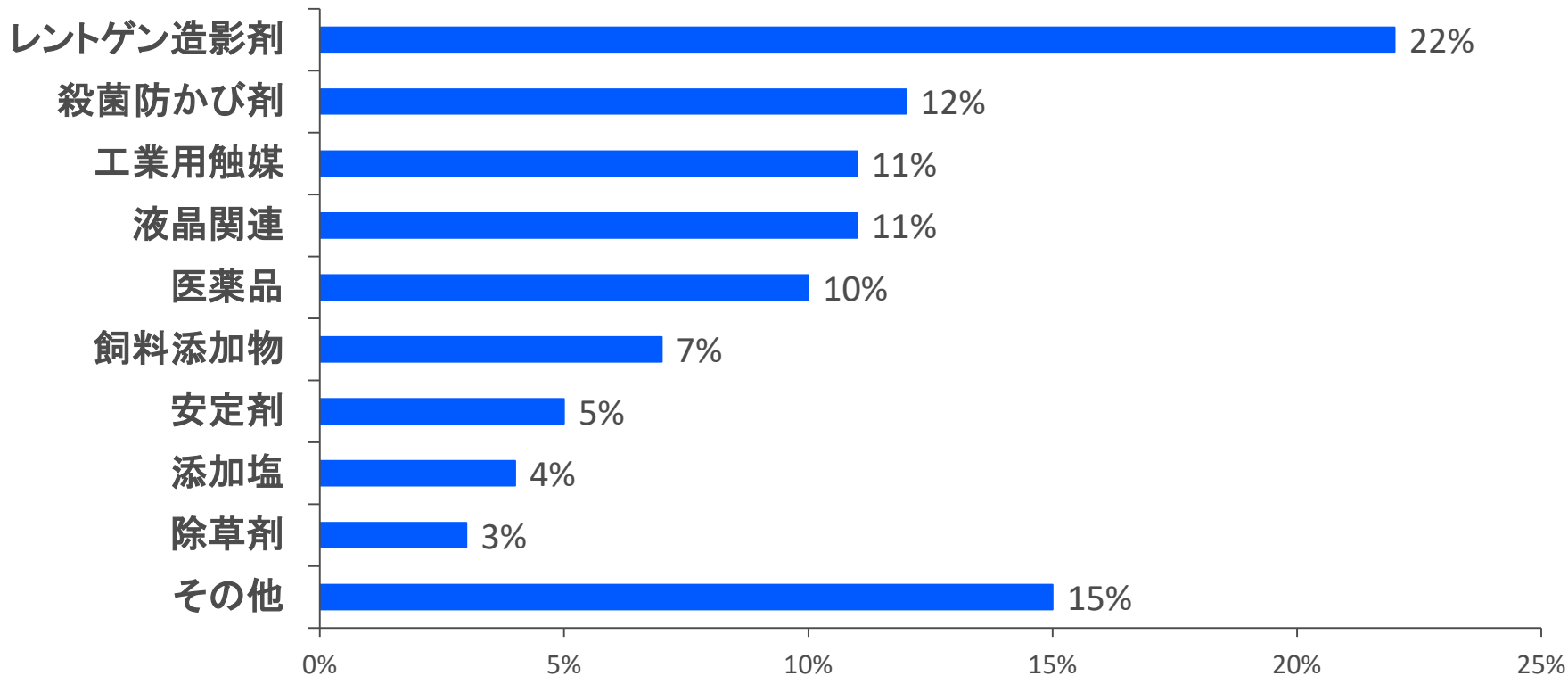
※(2021年1月~12月) (注1、注2)

注1 『ガス事業便覧2022年版』(日本ガス協会)による
注2 ガス販売量のカッコ内は39MJ/ m^3 換算値(当社換算)

ヨウ素の用途

ヨウ素の用途は多岐にわたっている

世界におけるヨウ素の用途別需要割合

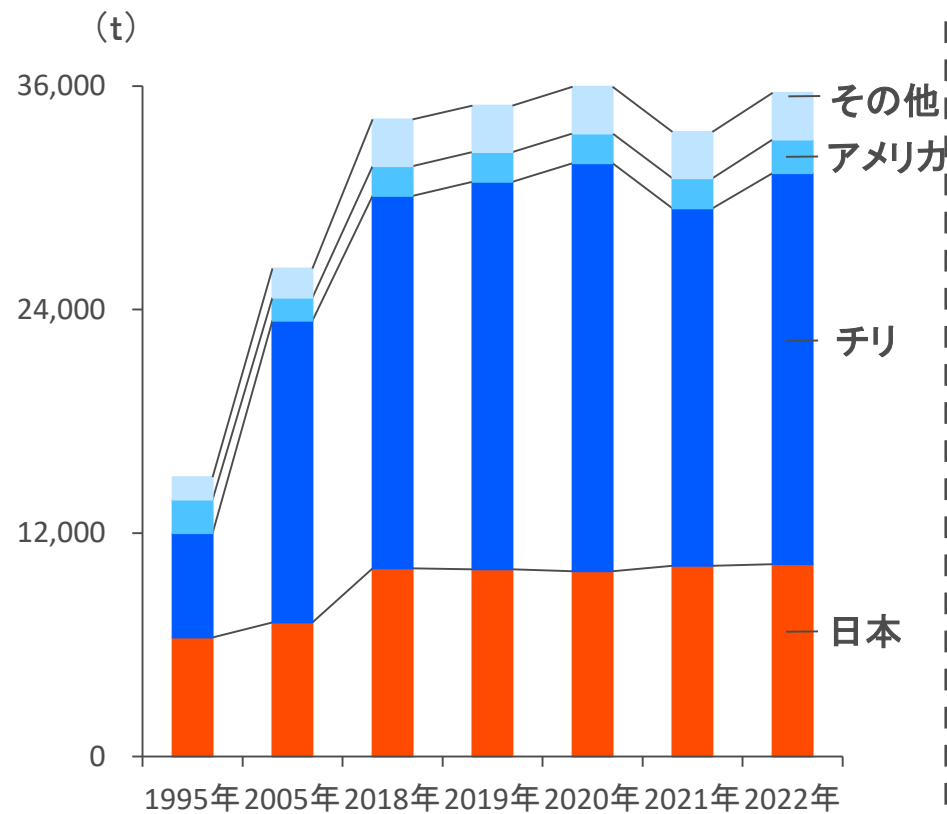


概要
グループ
ヨウ素の用途

世界のヨウ素生産量

ヨウ素の需要拡大に伴い、ヨウ素の生産量も増加傾向

世界のヨウ素生産量の推移



ヨウ素製品

プリル品



フレーク品



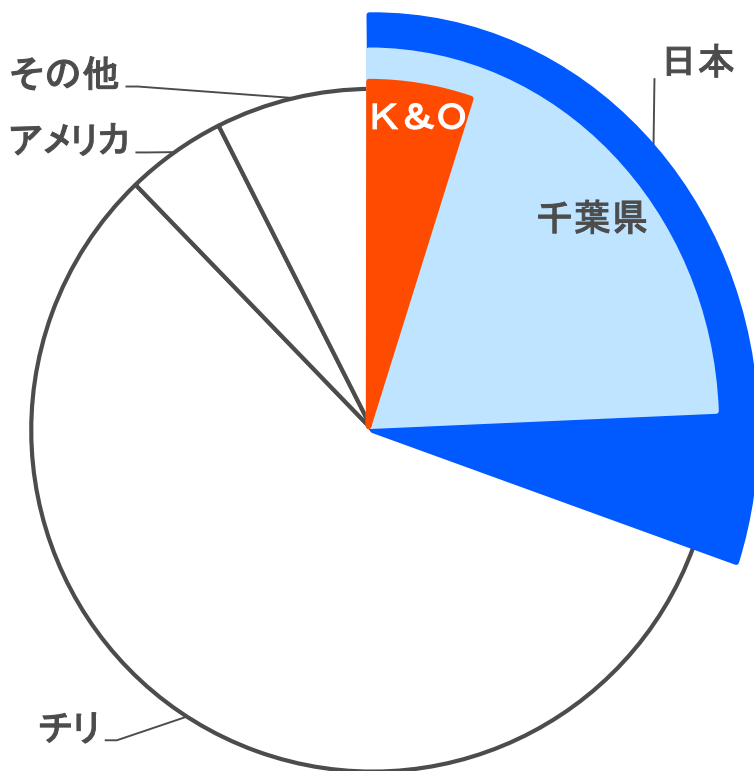
グループ概要
世界のヨウ素生産量

出所: 当社グループ調べ

当社グループのヨウ素生産量

当社グループでは世界のヨウ素生産量の約5%を生産している

世界のヨウ素生産量



世界における 日本の生産量シェア

- 日本は第2位(約3割)
- 商業レベルでの日本のヨウ素埋蔵量は第1位(約8割)

日本における 千葉県の生産量シェア

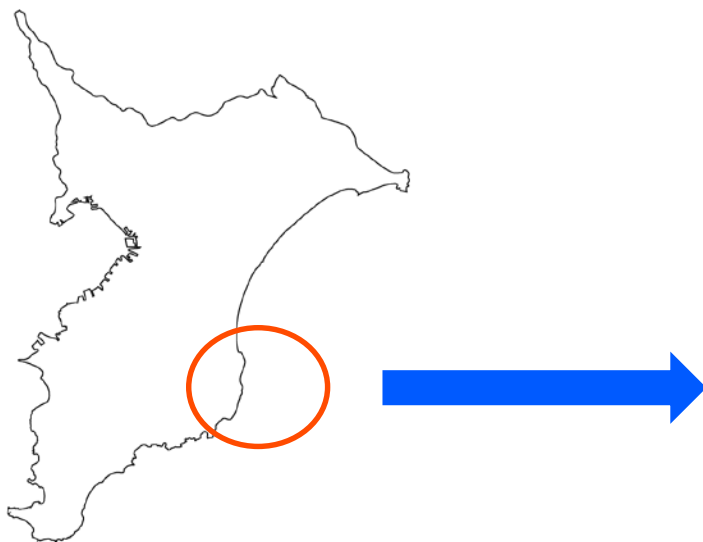
- 千葉県は国内の約8割を生産

世界・日本における 当社グループの生産量シェア

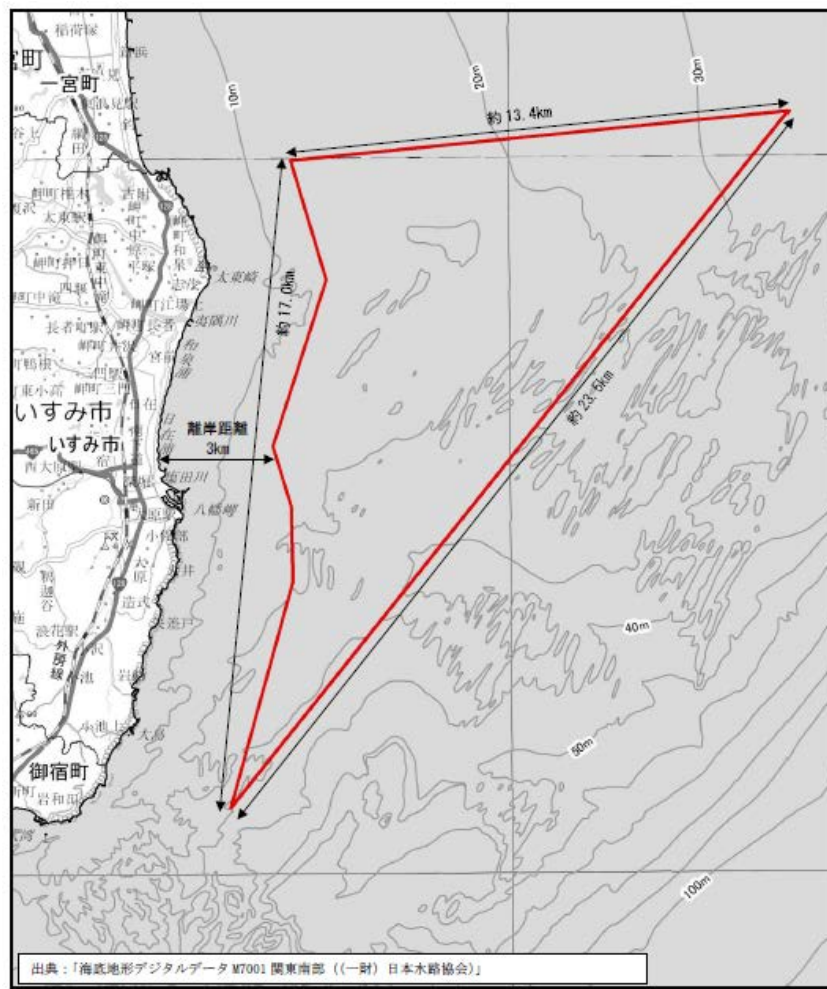
- 当社グループは世界シェア約5%、
国内シェア約15%

【トピックス】千葉県いすみ市沖の洋上風力

三井物産・RWE※・大阪ガス・当社の4社で千葉県いすみ市沖の洋上風力発電事業の事業化を検討中です。

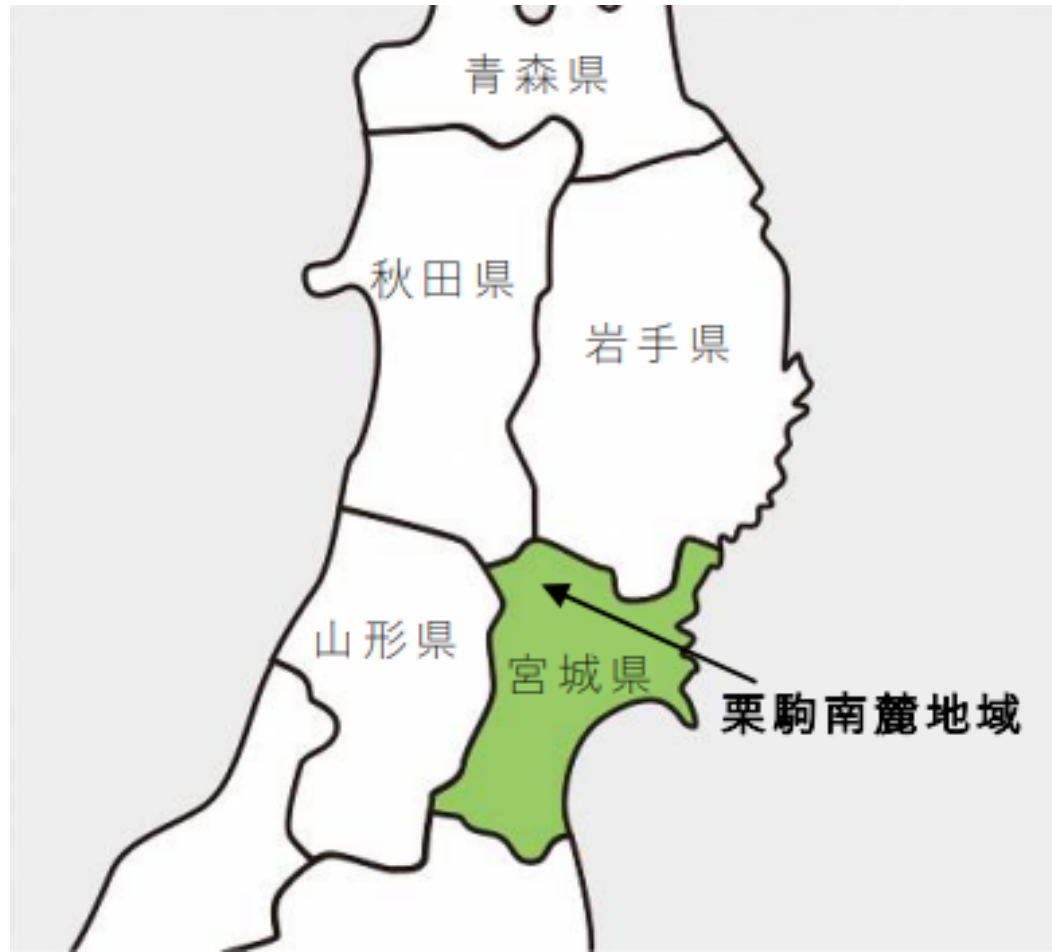


- 本海域は風況など一定の好条件が見込まれ、かつ今後、国による促進区域への指定に期待がかかることから、検討を開始するに至りました。
- 現時点で想定する本件の出力規模は最大495MWです。



【トピックス】宮城県栗駒南麓地域における地熱発電に向けた調査事業について

関東天然瓦斯開発(株)は宮城県栗駒南麓地域において地熱発電に向けた調査事業を行っています。



グループ「トピックス」地熱発電に向けた調査事業について

本資料のお取り扱い上のご注意

- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料中の情報によって生じた影響や損害については、当社は一切責任を負いません。
- 本資料の一切の権利は当社に属しており、方法・目的を問わず、無断で複製・転載を行わないようお願い申し上げます。

お問い合わせ先： K&Oエナジーグループ株式会社 総務部 0475-27-1011